



くものいと

Kumo-no-ito

No. 58

関西クモ研究会

March 2025

くものいと No. 58

March 2025

目次

奈良県川上村東川の烏川神社周辺で確認したクモ 関根幹夫	1
奈良県吉野町の天然記念物妹山樹叢で確認したクモ 関根幹夫	3
クモに生えるキノコ 新海 明	8
滋賀県甲賀市でカトウツケオグモを再記録 河瀬直幹	14
アワセグモ探索2 (生息確認地の追加記録) 藤野義人	17
けいはんな記念公園における希少なクモの記録 稲本雄太	21
シロブチサラグモのドーム網底に張られたハンモック網 岡田純二	24
和歌山県海南市孟子不動谷におけるコガネグモ <i>Argiope amoena</i> の分布と生息状況 関根幹夫	28
空飛ぶヒゴユウレイグモ 熊田憲一	36
滋賀県におけるクモのデータ整理及び新記録種の報告 熊田憲一	38
けいはんな記念公園におけるワクトツキジグモの記録 稲本雄太	46
兵庫県における外来種ハルカガケジグモの記録 本庄四郎	48
兵庫県におけるナカムラオニグモの記録 本庄四郎	52
喜界島, 沖永良部島, 粟国島, 渡名喜島, 久米島で採集されたクモ類 加村隆英	57
中部蜘蛛懇談会・関西クモ研究会 合同採集会の記録	62
関西クモ研究会 2024 年度 採集会の記録 京都市山科区 (JR 山科駅~毘沙門堂)	69
関西クモ研究会 2024 年度 例会の記録	74
関西クモ研究会 2023 年度 会計報告	76

奈良県川上村東川の烏川神社周辺で確認したクモ

関根幹夫

A list of spiders in and around Karasugawa-Jinja Shrine, Unogawa, Kawakami Village,
Nara Prefecture

Mikio Sekine

奈良県川上村東川（うのがわ）の烏川（からすがわ）神社周辺で確認したクモを報告する。本調査は、奈良県版レッドデータブックの改訂に関わる現地調査として実施した。奈良県におけるクモ類の調査報告は県北部に偏っている。また、奈良県におけるコガネグモの2013–2014年調査において、コガネグモの生息が確認されたことから、この場所を調査地に選定した。

烏川神社の宮守をされている東川区長の上平氏によれば、近年、神社の改修が行われたとのことで、神社境内のクモの種数は多くはなかった。なお、神社周辺の環境は、境内横のスギ林、神社北東の水路付近の灌木、吉野川河川敷の草地であった。

10月19日の調査では、奈良県環境森林部 景観・自然環境課の山原美奈氏と藤本将徳氏にクモ類採集の協力をいただいた。ここに記し感謝の意を表します。

調査日：2024年6月8日および10月19日

同定者：関根幹夫

採集あるいは確認されたクモは以下のとおり。科の配列は、谷川（2024）に準じ、学名は省略した。

ヒメグモ科：シロカネイソウロウグモ 2♀ (10/19), チリイソウロウグモ 1♀ (6/8),
ツリガネヒメグモ 1♀ (6/8) 1♀ (10/19), オオヒメグモ 1♀ 1♂ 亜成体 (6/8) 3♀ (10/19).

コガネグモ科：ハツリグモ 1♀ (6/8), ナガコガネグモ 1♀ (10/19),
ギンメッキゴミグモ 1♀ (6/8) 1♀ (10/19), ゴミグモ 2♀ (10/19),
カラフトオニグモ 2♀ (10/19), ジョロウグモ 2♀ 2♂ (10/19).

センショウグモ科：センショウグモ 1♀ (10/19).

アシナガグモ科：チュウガタシロカネグモ 1♀ (6/8) 2♀ (10/19),
オオシロカネグモ 1♀ (10/19), コシロカネグモ 1♀ (10/19),
メガネドヨウグモ 2 幼体 (10/19).

サラグモ科：ムネグロサラグモ 1♀ (6/8), コウシサラグモ属の一種 1♀ 幼体 (10/19),
ユノハマサラグモ 1♂ 亜成体 (10/19).

チリグモ科：ヒラタグモ 1♀ (6/8) 2♀ (10/19).

ウズグモ科：ヤマウズグモ 1♀ 1♂ (6/8) 1♀ (10/19).

タナグモ科：クサグモ 1♀ (6/8) 1♀ (10/19), コクサグモ 1♀ (6/8) 1♀ (10/19),
ヤチグモ類の一種 1 幼体 (10/19).

シボグモ科：シボグモ 1♀ (10/19).

ササグモ科：ササグモ 1♀1♂ (6/8) 1♀ (10/19).

キシダグモ科：スジブトハシリグモ 2♀ (6/8) 1♀ (10/19),
ハシリグモ属の一種 1♂亜成体 (6/8) 3♀亜成体 (10/19),
アズマキシダグモ 1♀亜成体 (10/19).

コモリグモ科：ウヅキコモリグモ 1♀ (10/19).

カニグモ科：コハナグモ 1♀ (6/8), トラフカニグモ 1♀ (10/19),
カニグモ属の一種 1♀亜成体 1♂亜成体 (6/8) 1♀幼体 (10/19).

ネコグモ科：ネコグモ 1♀ (10/19).

ハエトリグモ科：マミジロハエトリ 2♂ (6/8) 2♀1♂ (10/19),
イナズマハエトリ 1♀1♂ (10/19), チャイロアサヒハエトリ 1♂ (6/8),
デーニッツハエトリ 1♀ (10/19), アオオビハエトリ 1♂ (6/8).

文献

谷川明男 2024. 日本産クモ類目録 ver. 2024 R2. <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>
(2024.10.27 参照)

奈良県吉野町の天然記念物妹山樹叢で確認したクモ

関根幹夫

A list of spiders in Natural Monument, Imo-yama jusō: Verdure on Mount Imo,
in Yoshino-cho, Nara Prefecture

Mikio Sekine

妹山は吉野川の右岸にそびえる標高 249 m ほどの小丘である。妹山の西南麓に大名持（おおなもち）神社が祭られた貞観元年（859）より、神山として樹木の伐採を禁じてきたために、まれに見る原始的な樹叢を保っており（奈良県レッドデータブック改訂委員会 2017）（図 1）、妹山樹叢は昭和 3 年（1928）3 月、国の天然記念物に指定された。妹山樹叢では今までにクモ類の調査は行われていないことから、今回、奈良県版レッドデータブックの改訂に関わる現地調査を実施した。

妹山樹叢は大きな樹木がうっそうと茂っているため、林内はかなり暗くなっており、群生するツルマンリョウやルリミノキなどの林床植物に、多数のハツリグモが造網している様子が確認された（図 2）。なお、林床のリター層は、落葉・落枝が厚く積もっているが、落葉と土壌中のクモ類は少なかった。以下に確認されたクモを報告する。

本調査にあたり、許可をいただいた文部科学省、吉野町と大名持神社、ならびにクモ類採集の協力をいただいた環境科学大阪（株）の辻悠祐氏と郷司太雅氏に心より感謝の意を表します。

調査日: 2024 年 6 月 1 日および 10 月 31 日

同定者: 関根幹夫

採集あるいは確認されたクモは以下のとおり。科の配列は、谷川（2024）に準じ、学名は省略した。

ヒメグモ科: シロカネイソウロウグモ 2♀ (10/31), チリイソウロウグモ 1♀ (10/31),
オナガグモ 1♀ (6/1) 1♀ (10/31), ヒザブトヒメグモ 1♀ (6/1),
ニホンヒメグモ 1♀ (6/1), ツリガネヒメグモ 3♀ (6/1) 1♀ (10/31),
カグヤヒメグモ 2♀ (6/1) 1♀ (10/31), コンピラヒメグモ 1♀ (6/1),
オオヒメグモ 1♂ (10/31), カニミジグモ 1♂ 亜成体 (10/31).

コガネグモ科: ハツリグモ 3♀ 1♂ (6/1) 1♀ 幼体 (10/31),
チュウガタコガネグモ 1♀ (6/1), コガタコガネグモ 1♀ (6/1),
コガネグモ属の一種 1 幼体 (10/31), ギンメッキゴミグモ 2♀ 1♂ (6/1) 2♀ (10/31),
ギンナガゴミグモ 1♀ (6/1) 1♀ (10/31), ヤマゴミグモ 1♀ (10/31),
ゴミグモ 1♀ (6/1) 1♀ (10/31), サガオニグモ 3♀ (6/1),



図 1. 対岸から妹山樹叢を望む. 吉野川とそこに注ぐ支流が削り残してできた浸食残丘に照葉樹の原生林が生い茂っている. 中左に大名持神社鳥居, 手前は吉野川.



図 2. 林床近くに造網されたハツリグモ (♀) の網.



図3. メガネドヨウグモ (幼体).



図4. ヤマウズグモ (♀).



図 5. コアシダカグモ (♂亜成体).



図 6. メスジロハエトリ (♀).

- カラフトオニグモ 1♀1♂幼体 (10/31), ジョロウグモ 1♀1♂ (10/31).
- センショウグモ科** : センショウグモ 2♀ (6/1), オオセンショウグモ 1♀ (10/31).
- アシナガグモ科** : チュウガタシロカネグモ 4♀ (6/1) 1♀ (10/31),
オオシロカネグモ 1♀ (6/1), コシロカネグモ 3♀ (6/1) 1♀ (10/31),
シロカネグモ属の一種 1♂亜成体 (6/1), メガネドヨウグモ 2 幼体 (10/31) (図 3),
アシナガグモ属の一種 1♀ [ウロコアシナガグモ?] (6/1).
- サラグモ科** : ムネグロサラグモ 1♀ (6/1), ナラヌカグモ 1♀ (6/1),
ユノハマサラグモ 1♀ (6/1).
- チリグモ科** : ヒラタグモ 2♀ (10/31).
- ウズグモ科** : マネキグモ 2♀ (6/1) 2♀ (10/31),
ヤマウズグモ 1♀ (6/1) 2♀ (10/31) (図 4).
- タナグモ科** : シモフリヤチグモ 1♀ (6/1), メガネヤチグモ 1♀ (10/31),
ヤチグモ類の一種 2 幼体 (6/1).
- ハタケグモ科** : ハタケグモ 1♀ (6/1).
- アシダカグモ科** : コアシダカグモ 1♂亜成体 (10/31) (図 5).
- ササグモ科** : ササグモ 1♀ (10/31).
- キシダグモ科** : スジブトハシリグモ 1♀ (6/1), スジアカハシリグモ 1♀ (6/1).
- コモリグモ科** : ウツキコモリグモ 1♀ (6/1).
- カニグモ科** : コハナグモ 2♀1♂ (6/1), トラフカニグモ 2♀ (6/1) 1♂亜成体 (10/31),
チュウカカニグモ 1♀ (6/1).
- フクログモ科** : フクログモ属の一種 1 幼体 (10/31).
- ハエトリグモ科** : ヤガタアリグモ 1♀1♂ (10/31). マガネアサヒハエトリ 1♀ (10/31),
メスジロハエトリ 1♀ (10/31) (図 6), デーニッツハエトリ 1♀ (10/31),
アオオビハエトリ 1♀ (10/31), ムツバハエトリ 1♀ (10/31).

文献

- 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編) 2017. 大切にしたい奈良県の野生動植物 – 奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版 –. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・環境課, 奈良, 791 pp.
- 谷川明男 2024. 日本産クモ類目録 ver. 2024 R2. <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf> (2024.10.27 参照)

クモに生えるキノコ

新海 明

生き物に多少詳しい方ならば「冬虫夏草」というキノコたちの名前を聞いたことがあるでしょう。冬には虫の姿をしていたのに、夏になるとキノコ（草）になってしまうことから、このような名がつけられました。セミの幼虫やアリの頭からニョキッと伸びた「セミタケ」や「アリタケ」など、聞いたり見たりしたことがある方もいるでしょう。

クモに取りつく冬虫夏草も知られています。梅雨の真っ只中の6月下旬から7月上旬に見ることができます。私が初めて、このクモタケに出合ったのは神奈川県二宮の押切坂上の海岸でした。当時ここに多数生息しているアシブトヒメグモの「子育て」について調べているときに見つけたのです。海岸へと続く小路を歩いていると、その傍らの砂をかぶった崖地の縁に「クモタケ」が頭を出していたのです。それ以前からクモタケの存在は文献を通して知っていましたが、出合ったときの第一印象は「こんな、ぱっとしないものか」という感じでした。私は、それ以前に図鑑などで見たものから勝手にクモタケの姿を大きく膨らませて想像していたのです。クモの頭からズドンと「たんぼ槍」のように生えている姿を……。実際に見たクモタケは砂をかぶった地面から、紫色を帯びた「たんぼ槍」の先端がわずかにのぞいただけの些細なものでした。少々気をつけて探さないと見逃してしまうほどです。けれど、その気になって付近の土手に目を凝らすと、ここにもあそこにも「あるわ、あるわ」といった感じでした。

このクモタケは、キシノウエトタテグモという地中性のクモから出ていました。アリタケやセミタケと異なりクモ本体は菌糸で完全に覆われており、この白くなった塊からクモタケは生えていました。なぜ、この白く塊と化した物体がキシノウエトタテだとわかるのかというと、その住居の形からです。クモタケは地中に作ったクモの住居の丸い戸蓋を押し上げて出ていました。

日本に生息する地中性のクモ類は数種類が知られています。クモ関係者にもっとも有名なのがキムラグモという原始的な形態を持ったクモでした。このクモの分布は九州以南が中心です。ジグモは全国に分布しますが、地上に袋状の糸でできた住居を持っています。この袋を突き破ってクモタケが出ていたわけでもありませんでした。ワスレナグモはそもそも住居の入り口に扉を作りません。カネコトタテグモという種類の入り口の扉は「観音扉」と呼ばれ、両開戸です。詳しく説明すれば、このような状況となりますが、クモの研究者にとってみれば住居の様子と場所から考えてひと目で判定が可能でした。

クモタケと初めて出合った当時、私はクモタケのみがクモタケだと思っていました。「何を言っているのかワカラナイ」と思った方もいるでしょう。後で詳しく説明します。

クモタケの研究者との出会い

私がクモタケと出会って1~2年後のことでした。その頃の私はクモタケにはほとんど関心はありませんでした。なんとといってもクモタケは「キノコ」であり、私は「クモ愛好家」だったのですから。

この時点では、その後数年間にわたってクモタケ調査に明け暮れるようになるとは思いませんでした。クモタケに取りつかれるようになったきっかけは、畑守有紀さんという当時滋賀大学でキノコを研究していた学生さんからの手紙でした。滋賀大学の横山和正先生の研究室では、何年にも渡ってクモタケの調査が行われており、クモタケの発生消長や成長過程などが調べられていました。畑守さんのテーマはクモタケがいつ頃にどのようにしてクモに取りつくのか、というものでした。結論から言えば、クモタケが発生した年よりもっと以前から取りついているようなのですが、その詳細は良くわかっていません。けれども、横山先生や畑守さんと知り合ったことでクモタケやそのホストに関してのさまざまな知見を得たのです。

私にとって最大の驚きは「クモタケというのは、ただ1種類を指すものではなかった」ということでした。ひょっとすれば読者の中にも同じように思っていた方もいるのではないのでしょうか。実は、クモタケはクモに取りつく冬虫夏草に対する一般的な呼び名であると同時に、*Nomuraea atypicola* との学名が与えられ、ある特定のクモタケ一種類の和名でもあったのです。

私がここでお話をするクモタケは狭義のクモタケ、すなわち *N. atypicola* についてですので、その点をお間違えなく。

クモタケを調べよう

まず、私がクモタケについて抱いた興味は日本での分布の広がり、その宿主（ホスト）についてでした。クモタケの分布を調べることは、すなわち宿主であるキシノウエの分布を調べることでもありました。何しろ、戸蓋を閉じたキシノウエを探すことは至難の業です。でも、クモタケが出ていれば、その存在は一目瞭然です。

この調査はクモタケが発生する6~7月に限ることが出来る点が良いところでした。一方で限られた時期に一人か二人で分布を確認してまわることは不可能です。そこで、クモタケの分布調査はアンケートによる方法を取りました。さらに、アンケートで集められない空白の地域の情報は、数人の仲間と出向いて直接自分たちで調べることにしたのです。

この調査は3年間におよび、延べ500人以上400余りの地点から情報が寄せられました。クモタケ調査で痛感したのは「いた（あった）」という情報ばかりでなく、「いない（なかった）」という情報の大切さです。でも、これがもっとも厄介な問題でした。私自身にも言えることなのですが、「いなかった」という情報は答えとして物足りなさを何か感じてしまうようです。「いた」地点が一箇所でもあれば、そのほかの「いなかった」情報を報告したくなるのですが、どこにも「全くいない」状態ですと「申し訳ない」とか「これじゃあ意味がないじゃないか」などと思ってしまう、返送する気が

失ってしまうようです。生息地の調査では「いない」「いない」の連発ではどうしようもないのは明白ですが、「いた」「いた」だけでも不十分なのです。「いた」場所と「いなかった」場所が比較できてこそ、分布に関する重要な情報を得ることが出来ます。専門家にとって、このことは自明なことでしょうが、私を含めたアマチュアにとっては、これがなかなか理解できないですし実行しづらい面があるのです。

私は、クモタケ調査以降にスズミグモやワスレナグモの分布をアンケートによって調べた経験がありますが、ここで述べた問題はいつも大きな「壁」となって立ちほだ

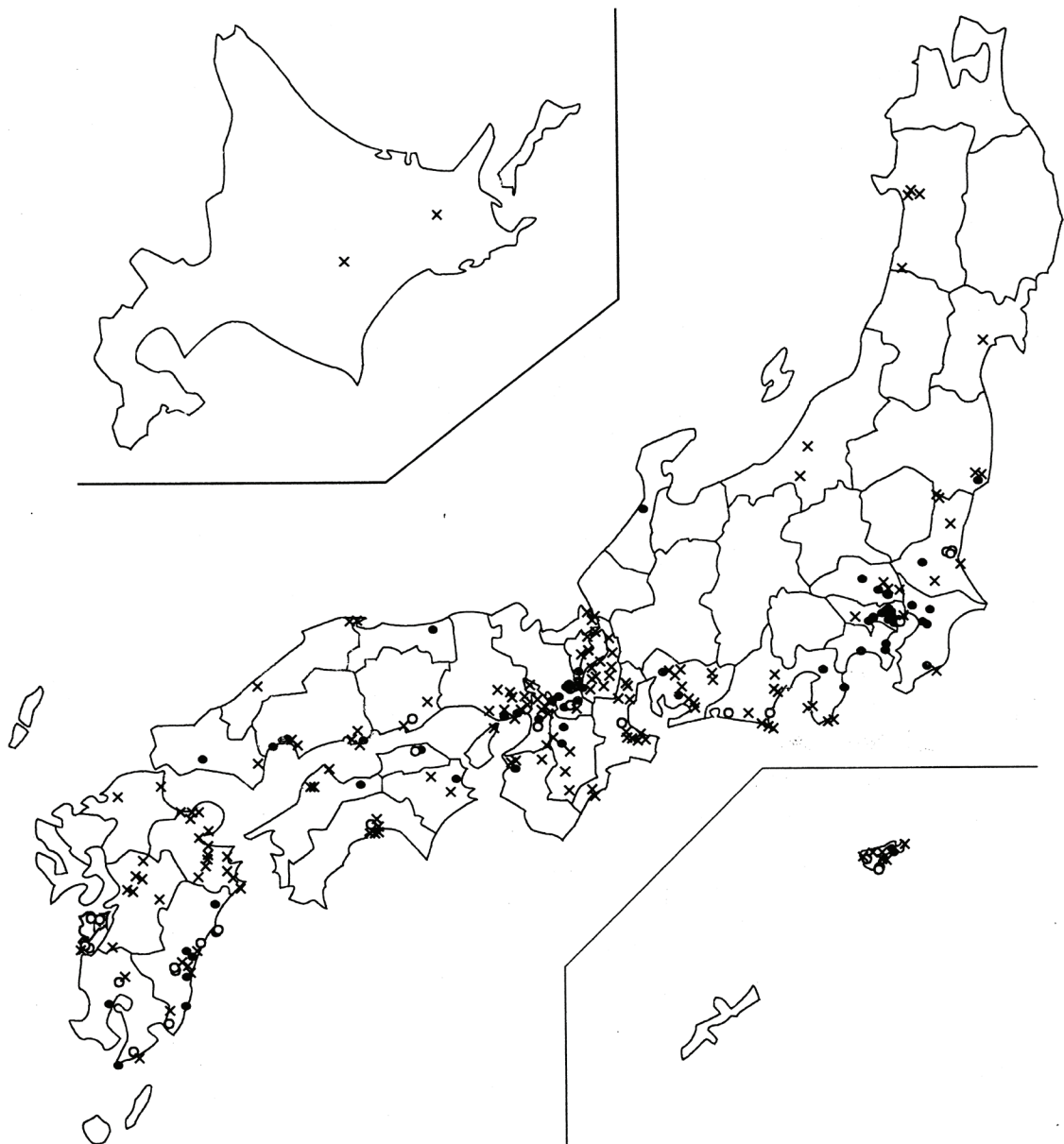


図 1. 日本におけるクモタケの分布調査結果 (1993 年～1996 年). ● : クモタケとキシノウエトタテグモが確認された地点. ○ : キシノウエトタテグモのみが確認された地点. × : どちらも確認されなかった地点. (畑守他 1997 から引用)

かりました。一方で、同好者のつながりの強さにはいつでも感動させられました。協力を依頼すれば寸暇を惜しんで調査をしてくれるのが常でした。アンケート調査ほど、クモそしてキノコ仲間の連帯の強さを実感させてくれたものではありませんでした。

さて、日本でのクモタケの分布調査の結果を図1に示します。この図を大雑把に眺めればクモタケは九州・四国・山陽・近畿そして東海から関東にかけて分布しているようです。言葉を変えると黒潮に沿った太平洋の沿岸地域を中心に生息しているように思えました。これをもって「照葉樹林帯と一致する」とか「2月の平均気温4度以上の地域に分布する」などと分析することも可能ですが、これに関してはさらに詳細なクモタケの分布調査の結果を待ってから考察を加える方が良さそうです。

宿主（ホスト）はキシノウエだけだった

この調査報告では分布については現況の記述にとどめたので、さしたる成果がありませんでした。しかし、宿主（ホスト）に関しては大きな進展がありました。実は、この調査以前の文献ではクモタケは、キシノウエトタテグモ・キノボリトタテグモ・キムラグモの3種類を宿主にするのだという報告があったのです。このうち、キノボリは「樹上からクモタケが出ていた」という観察状況から「キノボリトタテの巣だ」と類推したものでした。この類推はクモ研究者の判断としては妥当なものでした。けれども、私は樹上に住居を作成するキシノウエを見たことがありました。キシノウエの住居は崖地ばかりでなく、平坦な地面でも見られます。また、土質についても乾いた土だけでなく、砂をかぶった地面でも、苔むした中にも、枯れ木を穿った樹上にも住居を作成することもわかっていました。ですから「樹上から」クモタケが出ていたからといって、それはキノボリのものだという類推には疑問符がついたのです。そしてこの疑問は畑守さんとその夫君でもある金野晋さんの執念で解決したのです。

木の幹から出ていたクモタケは鹿児島県で発見されたものでしたが、このときの標本がホストと共に保存されていたのです。そして、この標本をもとにホストのクモの分類がなされたのです。この同定作業は、ここでこんなにあっさりと言われるほど簡単なことではありませんでした。ホストはクモタケの菌糸で覆われて原型をとどめていません。丁寧に菌糸をはがしても（実はこれすら困難ですが）困難な努力というものです。

そこで畑守さんらは菌糸で覆われたホストに残された「硬い」部分を探し出したのです。クモの体の一部にそれはありました。上顎です。これはクモが捕らえた餌に最後のとどめを刺す器官、俗に言う牙です。そのためにここはキチン質という硬い上皮で出来ていたのです。さらに、ここには特徴的な構造がいくつも見られたのです。この上顎の造りをトタテグモ類各種と比較をしました。この結果、樹上に生えていたクモタケのホストの正体はキノボリではなくキシノウエであることが証明されたのです。このような経緯からクモタケのホストのリストにあったキノボリを消し去ることが出来ました。

九州以南に生息するキムラグモもクモタケのホストになるといわれていました。そ

れは九州在住のクモ研究者の報告からでした。クモタケがその方の家の庭から生え、その庭にキムラが多数生息していたことから、ホストはキムラに違いないということでした。クモタケの発見は、当時は珍しかったらしく、九州の新聞記事として掲載されたものでした。この真偽についての調査は、私と金野晋さんで行いました。クモタケが多く発生する梅雨時を狙って九州へ出かけ、まずクモタケを見つけて、これを掘り取ることが目標でした。サンプルが得られたら、菌糸に包まれたホストの上顎の特徴からホストとなったクモを同定するという段取りでした。初めて訪れる採集地で、どのように探すのか・・・疑問に思う方もいることでしょう。実際のところ、これは「勘」に頼るほかにありませんでした。

九州のクモタケの場合には、キムラから生えたものを採集したかったわけですので、キムラの生息地を探し、そこでクモタケが発生しているかどうかでした。この調査は大分県から入り、宮崎県に抜けるというコースでしたが、大分では全くクモタケに出会うことは出来ませんでした。しかし、宮崎県に入ってすぐの延岡市で運良くクモタケそれも完全世代のものに出会えました。ところが、ここにはキムラがたくさんいるわけではありませんでした。キムラだらけの場所にクモタケが生えてくれたら良かったのですが、付近の様子からはキムラもキシノウエも共に生息していそうなところで、ホストの種類はここでは決めかねました。

宮崎南部に移動するとキムラの生息数は格段に増えました。特に宮崎市から奥に入った、照葉樹林で有名な綾町ではキムラが群棲する崖地を何箇所も見つけましたが、クモタケは一つも発見することができませんでした。しかし、「キムラが多数いる場所にクモタケが出ていなかった」ことと、ゆえに「クモタケのホストはキムラではない」ことは別のことです。結局は、菌糸で覆われたホストの標本の上顎を調べてみるのが、もっとも有力な証明法でした。九州で得た標本を持ち帰った金野さんは畑守さんと共に上顎を調べてくれました。そして、これらのホストはすべてキシノウエであることがわかったのです。

九州で採集されたクモタケのホストは、いずれもキシノウエだったこと、キムラの群棲地ではクモタケが採れなかったことなど、得られた結果からキムラはクモタケのホストではないと結論付けるのは言い過ぎかもしれません。けれども、新聞記事に掲載された一例報告から、キムラがクモタケのホストと結論されたことも、言い過ぎに違いありません。私たちは、その後も九州でクモタケやキムラの調査を何回も実施しましたが、キムラから発生した例には一度も遭遇していません。さらに、キムラとキシノウエが同じ場所で混在していることも度々確認しています。これらの状況証拠から、キムラからクモタケが出たという報告は誤認の可能性が高く、キムラがクモタケのホストとなることはないだろうと考えています。

研究は続く

どのような研究にも言えることと思いますが、調査がある程度まで進展すると、その先に必ず新たな問題点が湧き出てきます。だからこそ「面白い」なのでしょう。

クモタケ調査もまた同じでした。その発生活長やホストは何か。分布はどうなっているのか、などについてはかなり判明しました。しかし、クモタケはいったいいつ頃にキシノウエに取りつくのでしょうか。1年以上も前に採集して、自宅で飼育していたキシノウエからもクモタケが出てきたことを、畑守さんは確認しています。このことから、クモに取りつくのは成体になるかなり以前のようなようです。

滋賀大学の横山研の調査では、クモタケが多く取りつくのは比較的大型の個体であることがわかっています。すなわち、若齢のクモは生き延びる可能性が高いわけです。これはクモタケにとっても好都合です。ホストを全滅させてしまえば、自分たちも生き残れないからです。そして、「デカイ」ホストはクモタケにとっても「デカイ」収穫となります。寄生者と宿主（ホスト）を巡る戦いは、興味尽きないなかなか面白い問題を多々含んでいそうです。

われわれが行った調査結果を足がかりとして、キノコやクモの次の世代の研究者が、これらの問題を解決してくれると期待しています。

引用文献

畑守有紀・新海明・上田俊穂 1997. クモタケの全国分布調査結果. *Kishidaia*, 72: 34–47.

滋賀県甲賀市でカトウツケオグモを再記録

河瀬直幹

筆者は以前、滋賀県甲賀市におけるカトウツケオグモの記録（2021年8月観察）を報告した（河瀬 2022）。今回 2024年7月、前回の記録と同じ甲賀市水口町の公園にて、再びカトウツケオグモを観察したので報告したい、前回の記録（河瀬 2022）を含めると、滋賀県では5例目の公表記録と思われる。また本種の今後の生態解明に資するため、前回と今回の2例に共通する確認状況（環境条件等）について整理を試みた。今後の生態観察の参考になれば幸いである。クモが捕獲したハエの分類については、加藤大智博士（茨城県つくば市在住）にご教示いただいた。御礼申し上げます。なお本種は希少種であることから、詳細な確認場所の情報は控えた。

【データ】

カトウツケオグモ，1雌，滋賀県甲賀市水口町北内貴，2024年7月9日・15日・21日，河瀬直幹 確認・撮影。

【確認状況】

2024年7月9日17時頃，同15日9時頃，同21日9時頃の3日の観察機会に，いずれも同じ林縁の低木（ムラサキシキブ）の横枝（図1）の葉に止まっていた。9日に発見した際にはハエ（ニクバエ科ニクバエ亜科）を摂食中であった（図2,3）。15日に再び探したところ，同じムラサキシキブ横枝の50cmほど離れた別の葉にいた（図4）。21日は15日と同じ葉に止まっていた（図5）。24日以降には発見できなかったが，付近で実施された草刈りによって，ムラサキシキブの下枝が刈り払われた影響と考えられた。

【前回2021年と今回2024年記録に共通する確認状況】

- ・ほぼ同じ場所の葉上で数日にわたって（2021年は5日間，2024年は12日間）同じ個体と思われる雌が観察された。
- ・低木の横枝の葉に止まっていた（2021年はヤマハギ，2024年はムラサキシキブ）（図1）。付近に多いススキやネザサなど，風に揺れやすい植物上ではない。
- ・林縁の風当たりが弱い場所で，十分に明るく，朝日や木漏れ日が入るものの，炎天下にさらされない葉上（図1）。
- ・2021年は開花中のヤマハギの花のすぐ横の葉であり，2024年は横枝の先に飛翔する昆虫類が止まりそうな空間に接した葉上だった。捕食のための待ち伏せ状態を観察したと考えられた。
- ・2021年，2024年とも個体が定位していた葉上には座布団のように円形状に厚く糸が張られた場所があり（図2矢印を参照），捕食のための足場と考えられた。図3の



図 1. 林縁のムラサキシキブ横枝 (写真右半が横枝で, 矢印は 15 日・21 日の確認位置).

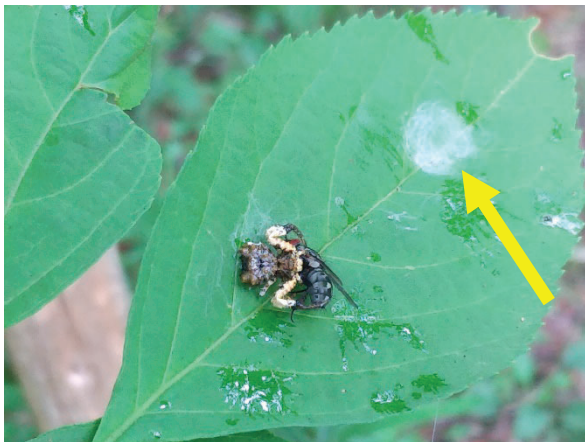


図 2. 7 月 9 日の観察状況 (ニクバエ類を捕獲). 矢印は糸が円形状に張られた足場.

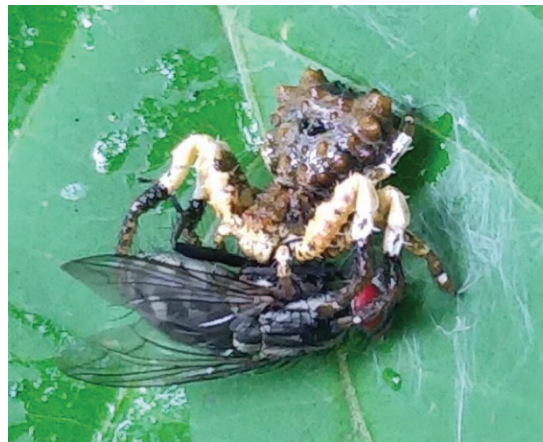


図 3. 同 9 日 (正面から拡大写真).

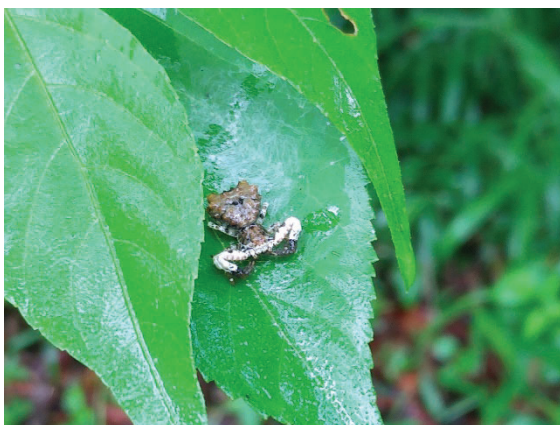


図 4. 同 15 日の観察状況.



図 5. 同 21 日の観察状況.

拡大写真でもクモの足元の葉に糸が薄く張られている。

- ・図4と図5は同じ葉であるが、図5では葉の表面に図4にはない複数(約10か所)の黒い小斑点があり、15日から21日の間に生じたと判断できる(餌となった虫やクモの体液か?クモが脚で強く踏ん張って生じた葉の傷か?)。

引用文献

河瀬直幹 2022. 滋賀県甲賀市におけるカトウツケオグモの記録. くものいと, 55: 13-14.

アワセグモ探索 2 (生息確認地の追加記録)

藤野義人

1. はじめに

アワセグモの生息調査を京都府及び周辺地域で行った。その結果、新たな生息地を京都府舞鶴市 1 地点、滋賀県大津市 2 地点、甲賀市 1 地点、高島市 1 地点、野洲市 1 地点、奈良県奈良市 1 地点、生駒市 1 地点、計 8 地点で確認したので報告する。

2. 研究方法

(1) 調査期間 2024 年 3 月から 2024 年 11 月

(2) 調査地 京都府及び周辺地域

本種の生息が期待される境内に社寺林が見られる社寺で調査した。表 1 に調査地を示す。

表 1. アワセグモの調査地 (2024 年 3 月～2024 年 11 月)。

調査日	調査地		生息確認の有無
2024/3/15	滋賀県甲賀市土山町	田村神社	確認できず
2024/3/15	滋賀県甲賀市土山町	瀧樹神社	確認できず
2024/3/15	滋賀県甲賀市甲賀町	油日神社	確認できず
2024/3/22	奈良県奈良市	手向山八幡宮	確認
2024/3/31	三重県伊賀市甲南町	岩附神社	確認できず
2024/4/11	滋賀県大津市	毛知比神社	確認
2024/4/11	滋賀県大津市	新茂智神社	確認
2024/5/14	愛知県名古屋市	熱田神宮	確認できず
2024/5/14	愛知県名古屋市	八事山興正寺	確認できず
2024/7/6	京都府舞鶴市	朝代神社	確認
2024/7/6	京都府舞鶴市	桂林寺	確認できず
2024/7/6	京都府舞鶴市	円隆寺	確認できず
2024/9/25	滋賀県甲賀市信楽町	玉桂寺	確認
2024/9/30	滋賀県野洲市	御上神社	確認
2024/10/10	大阪府枚方市	三宮神社	確認できず
2024/11/7	滋賀県高島市	水尾神社	確認できず
2024/11/7	滋賀県高島市勝野	勝野日吉神社	確認
2024/11/15	大阪府交野市	磐船神社	確認できず
2024/11/15	大阪府交野市	星田妙見宮	確認できず
2024/11/15	奈良県生駒市	高山八幡宮	確認

(3) 調査方法

社寺境内にある石燈籠の隙間を調査した(図1)。隙間の調査にはヘッドライトを用い隙間を覗き込み目視でクモを確認した。追い出しが可能な場合はクモを隙間から追い出し、日付・地名を記したメモと共にデジタルカメラで撮影した(図2)。採集は最小限に止めた。



図1. 境内にある石燈籠.



図2. アワセグモを追い出すようす.

3. 調査結果

(1) 生息を確認した調査地

京都府：舞鶴市朝代神社

滋賀県：大津市毛知比神社・新茂智神社，高島市勝野日吉神社，野洲市御上神社，甲賀市信楽町玉桂寺

奈良県：奈良市手向山八幡宮，生駒市高山八幡宮

(2) 発見場所

全て石燈籠の隙間で発見された。アワセグモの画像を図3に示す。

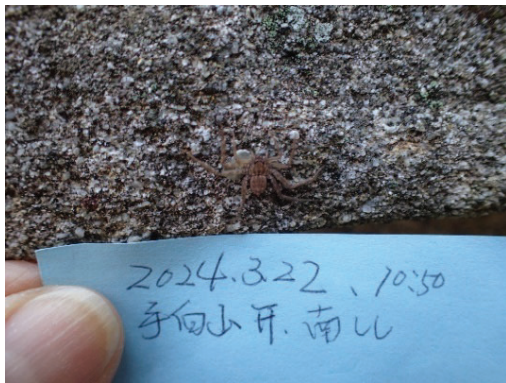
(3) 生息を確認できなかった調査地

滋賀県甲賀市油日神社・田村神社・瀧樹神社，三重県伊賀市岩附神社，愛知県名古屋市八事山興正寺・熱田神宮，京都府舞鶴市円隆寺・桂林寺，大阪府枚方市穂谷三宮神社，滋賀県高島市水尾神社，大阪府交野市星田妙見宮・磐船神社では生息の確認ができなかった。

4. 考察

本調査で新たに8地点での生息を確認した。京都府では既に中南部の市町村での生息を確認しており(藤野2023)，府北部での生息確認が課題となっていた。舞鶴市での生息確認を機に府北部での調査地域を拡大したい。滋賀県大津市・甲賀市・高島市・野洲市，奈良県生駒市でも生息を確認した。アワセグモの生息分布域はさらに拡大するものと推測される。大阪府や愛知県でも調査を行ったが今回は生息を確認できなかった。

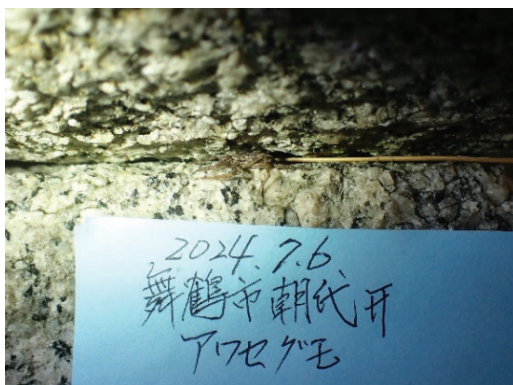
アワセグモの生息を確認するために石燈籠の隙間に焦点を絞ってピンポイントの調査を行ったが，効率よく調査できたと考えている。アワセグモを確認した石燈籠は，



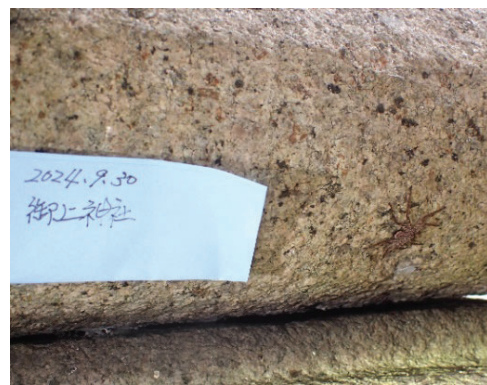
手向山八幡宮 2024/3/22



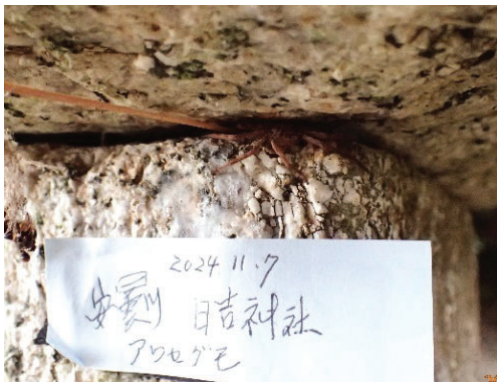
毛知比神社 2024/4/11



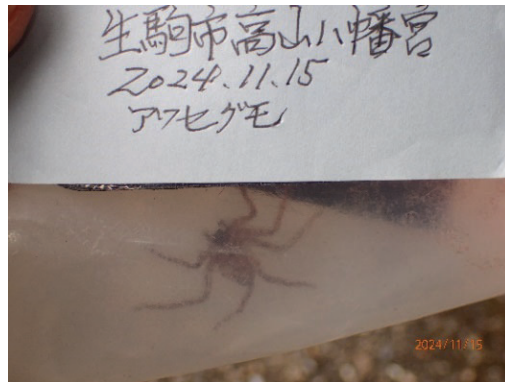
朝代神社 2024/7/6



御上神社 2024/9/30



勝野日吉神社 2024/11/7



高山八幡宮 2024/11/15

図3. 各所で確認したアワセグモ.

クモが潜む適当な広さの隙間があることが重要であるが、石燈籠の周囲の環境も大きく関わっているようであった。石燈籠のすぐ近くにスギやヒノキなどの樹木が多いところで発見されることが多かった。

アワセグモを確認できなかった調査地では、アワセグモが潜む石燈籠の隙間の広狭が適当でなかったりコーキングされたりしていた。また、石燈籠の周囲に樹木が見られない所では発見できなかった。石燈籠の隙間は他のクモも利用しており、隙間が広

い所にはコアシダカグモが、狭い所にはヒトエグモやキハダエビグモなどを見かけた。

アワセグモは、本来、樹林性のクモで樹木の樹皮の隙間に潜んで生活しているが、今回の調査でも石燈籠の隙間で多く見出された。石燈籠などの人工構造物の隙間を棲み処として利用している個体が多いことを改めて確認できた。

アワセグモの探索には、豊かな樹林が広がる社寺林の人工構造物の隙間をピンポイントで探索することが有効である。この方法で探索することにより各地でアワセグモの発見情報が増えることを期待している。

謝辞

調査に当たってご協力いただいた社寺の皆様には感謝申し上げます。

参考文献

- 藤野義人 2024. ヒトエグモの生息分布調査 4 (生息確認地の追加記録). くものいと, 57: 12–14.
- 藤野義人 2024. 京都アワセグモ探索. くものいと, 57: 15–24.

けいはんな記念公園における希少なクモの記録

稲本雄太

はじめに

けいはんな記念公園は、けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）の建設を記念した都市公園で、日本の里の景色をコンセプトとして日本庭園や広場、里山などで構成された様々な景観を楽しむことができる。

また、24.1haの敷地のうち、15haは京阪奈丘陵の開発を免れた里山として管理がなされており、希少種を含んだ多様な生物の生息場所として保全が行われている。近年では昆虫やシダ、蘚苔類、菌類などの専門家による調査が行われ、生物相が解明されつつあるが、クモに関しては十分な調査が行われておらず、情報の蓄積が望まれる。

今回は2015年から2025年の期間にかけて、断片的ではあるが筆者が確認できたいくつかの注目すべき種について報告する。また、種名および学名については京都府自然環境目録2015に従った。

注目すべき種

1. カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi*

採集日：2018年7月31日

採集地：京都府相楽郡精華町精華台6-1 けいはんな記念公園

採集者：稲本雄太

リョウブ *Clethra barbinervis*、コナラ *Quercus serrata* などの優占する二次林の葉上に台座をつくって静止していた（図1）。京都府下からの記録は少なく、市内では小池（2005）による2か所の報告をはじめとし、吉田（2000, 2010）、清水（2016）の少なくとも5例が報告されているにすぎない。亀岡市および大山崎町からはそれぞれ1例の記録があるが（前畑・出口 2024, 西川 2016）、京都府南部からの正式な記録はないものと考えられる。確認できた個体は採集し、70%エタノールで液浸し大阪市立自然史博物館に寄贈した。

2. ゲホウグモ *Poltys illepidus*

撮影日：2020年1月21日

撮影地：京都府相楽郡精華町精華台6-1 けいはんな記念公園

撮影者：稲本雄太

コナラ、アカマツ *Pinus densiflora*、コバノミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* の優占する二次林にある木製手すりに静止していた（図2）。冬季で気温が低いためか、ほとんど動かず越冬個体であった可能性が示唆される。

3. キシノウエトタテグモ *Latouchia typica*

撮影日：2023年6月29日

撮影地：京都府相楽郡精華町精華台6-1 けいはんな記念公園

撮影者：稲本雄太

二次林の崖面や庭園の苔地などに広く営巣がみられ、移動中の成体に遭遇することもしばしばある(図3)。また、稲本(2022)で報告したように、庭園の管理作業時にリーフブロワーで掃除を行うと、風に煽られて蓋が開閉するため、生息場所の確認が容易である。

4. キノボリトタテグモ *Conothele fragaria*

撮影日：2024年2月12日

撮影地：京都府相楽郡精華町精華台6-1 けいはんな記念公園

撮影者：稲本雄太

リョウブ、コナラの優占する二次林にあるコナラの大木の樹皮に営巣していた(図4)。当地では個体数は少ないものの、開けた広場の石垣などでも営巣が確認されている。また、前述のリーフブロワーを併用することで、観察事例が増加する可能性がある。



図1. カトウツケオグモ



図2. ゲホウグモ



図3. キシノウエトタテグモ



図4. キノボリトタテグモの巣

謝辞

今回の報告に際し、関西クモ研究会会誌『くものいと』への投稿をご快諾頂き、同定や生態などの情報についてご教示頂いた加村隆英博士（追手門学院大学名誉教授）に感謝申し上げます。

参考文献

- 稲本雄太 2022. 掃除ついでにクモ探し ～リーフブロワーを使ったトタテグモの観察法～. *Nature Study*, 68(6): 11.
- 環境省 2020. 環境省レッドリスト 2020. <<https://www.env.go.jp/press/107905.html>> （最終閲覧日：2025年1月17日）
- 京都府 2015. 京都府レッドデータブック 2015. <<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/index.html>> （最終閲覧日：2025年1月17日）
- 京都府 2015. 京都府自然環境目録 2015. <<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/mokuroku/index.html>> （最終閲覧日：2025年1月17日）
- 小池直樹 2005. カトウツケオグモ採集の報告. *くものいと*, 37: 19.
- 清水裕行 2016. 京都市で採集されたカトウツケオグモ. *くものいと*, 49: 25.
- 西川喜朗 2016. 関西クモ研究会 採集会の記録（2015年度）. *くものいと*, 49: 26–28.
- 前畑晃也・出口鈴 2024. 京都府亀岡市におけるカトウツケオグモの採集・飼育記録. *くものいと*, 57: 25–28.
- 吉田真 2000. 京都府のクモ類（2）. *くものいと*, 27: 19–28.
- 吉田真 2010. カトウツケオグモの分布記録. *くものいと*, 43: 12.

シロブチサラグモのドーム網底に張られたハンモック網

岡田純二

はじめに

シロブチサラグモは平野部の草原，河原，溪流などの草間，樹葉間の低い場所に深いドーム網を張る。時にドーム網の下にハンモック網を張ることもある（新海・高野 1984）とされているが，本種の網を観察していると，底にハンモック網が張ってあるものの方が無いものより多い印象があったので，具体的にどのくらいの比率でハンモック網が張られているのか，またハンモック網はどのような形状をしているのかを 2024 年の春と秋に調べてみた。

方法

観察場所と観察日は以下の通りである。

- ・名張市桔梗が丘，西徳明池横の U 字溝（長さ約 50 m）。2024 年 2 月 14 日，2024 年 3 月 31 日，2024 年 4 月 12 日，2024 年 11 月 7 日。
- ・名張市桔梗が丘中学横，剪定済みのツゲ生垣の上面（長さ約 45 m）。2024 年 11 月 5 日。
- ・名張市桔梗が丘 10 号公園内，池の横土手の草間（長さ約 40 m）。2024 年 11 月 14 日。

ドーム網下のハンモック網の有無は，倍率が 6 倍で 50 cm まで近接が可能な双眼鏡を用いて確認した。シロブチサラグモの網は細い糸で作られているためか通常の撮影ではほとんど網が写らず，霧吹きで水を降りかけても網に水がうまく残らないので，春にはハンモック網の有無を確認することはできたが，形状の詳細な観察はできなかった。秋の冷え込んだ 11 月 5 日，14 日の朝日の当たっている 40 分程の間に，網に霧状の水滴が付着して全体像が明瞭に見えるものが 6 個見つかったので，網の形状の確認と撮影を行った。

結果

ハンモック網の有無

ハンモック網の有無の計数結果は表 1 のとおりである。ハンモック網を有する網の比率は，2024 年 2 月 14 日において 23.5 % と低かったが，他の時期では概して高く，2024 年 4 月 12 日，11 月 5 日，11 月 7 日においては 100 % であった。

当初の印象のとおり，図 1 のようなハンモック網がないものは比較的少なく，図 2 のような独立した 1 枚のハンモック網をドーム網の下に持つものが多いことが分かった。中には 2~3 枚のハンモック網が重なっているように見えるものもあったが，複数の網がどう重なっているかについては詳細な確認はできなかった。

表 1. シロブチサラグモの網におけるハンモック網の有無.

観察日	2024. 2. 14	2024. 3. 31	2024. 4. 12	2024. 11. 5	2024. 11. 7	2024. 11. 14
観察場所	U字溝	U字溝	U字溝	ツゲ生垣	U字溝	草間
ハンモック網有り	4	41	45	14	11	13
ハンモック網無し	13	2	0	0	0	2
合計	17	43	45	14	11	15
有りの比率 (%)	23.5	95.3	100	100	100	86.7

ハンモック網を有する網の形状

ドーム下部のハンモック網の状態を大別すると、ドーム網とハンモック網が繋がらず独立している形状のもの（図 2）とドーム網と下部のハンモック網の一部が繋がっているもの（図 3-6）があることが分かった。

図 2 の網（2024 年 11 月 14 日撮影）では、ドームの下に独立した斜めのハンモック網がある。図 3 の網（2024 年 11 月 5 日撮影）では、ドーム下のハンモック網が皿状で、全体が 2 枚の皿を合わせたような形になっており、画面左側では糸の密度が高く上下の網が接合し、糸の密度の低い右側は二枚貝が口を開くように隙間が空いている。図 4 の網（2024 年 11 月 5 日撮影）もほぼ同様の形状である。図 5 と図 6（いずれも 2024 年 11 月 14 日撮影）の網では、2 枚の網がさらに大きく口を開いた状態になっている。

なお、調査中に以下の 3 つの事例を観察したので、付記する。(1) 図 3 と類似の形状のハンモック網の下を雄のクモが横切った後、雌の居るドーム網に侵入した。(2) ドーム下にユスリカの一種が侵入し、ドーム網とハンモック網とを繋ぐ網に引っ掛かり、クモが捕食した。(3) 小型のハチの一種が侵入し、ドーム網とハンモック網とを繋ぐ網に引っ掛かり身動きがとれなくなった。このハチの一種は餌には大きすぎたのか、数分後捕食されずに網から逃げた。

考察

ハンモック網の有無について

気温の低い 2 月 14 日にはハンモック網の有るものが少ないのに対して、3 月下旬～4 月、11 月ではハンモック網を持つものが主流になり、観察時期によって大きく変わることが分かった。気温の低い 2 月中旬には、日当たりの良い場所を求めて網の張られる場所が頻繁に変わる。このように、ひとつの網が維持される期間が短い場合は、ハンモック網を張る個体が少ないと言える。一方、風などで網を壊された場合に壊された網を再利用してハンモック網にしていると思われる網も観察されるので、同じ場所に一定の時間続けて網を張る場合にハンモック網が形成されやすいことが考えられる。

ハンモック網の形状と用途

ハンモック網を有する網の中にも，ドーム網と繋がっていない網と繋がった網が見つかり，形状のバリエーションが観察されたことから，網が複数の用途に使わ



(図 1)



(図 2)



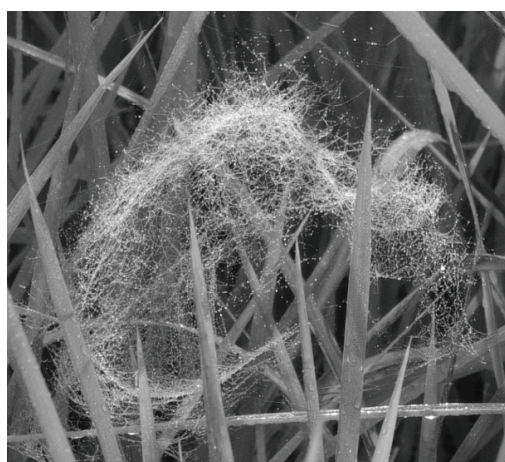
(図 3)



(図 4)



(図 5)



(図 6)

図 1-6. シロブチサragモの網の形状 (説明は本文を参照).

れている可能性もある。ハンモック網の機能として考えられるのは、餌の捕食、生殖行動に関係すること、天敵からの防御、同種または他種のクモに対して垂直移動する場所の確保などであるが、その詳細な説明は今後の課題である。

謝辞

原稿草稿の添削指導を頂いた加村隆英先生、原口岳氏には厚く御礼申し上げます。

引用文献

新海栄一・高野伸二 1984. フィールド図鑑 クモ. 東海大学出版会, 204 pp.

和歌山県海南市孟子不動谷におけるコガネグモ *Argiope amoena* の分布と生息状況

関根幹夫

Distribution and inhabitation status of the orb web spider, *Argiope amoena* (Araneae: Araneidae), in Mohko-Fudodani, Kainan City, Wakayama Prefecture, central Japan

Mikio Sekine

In Kainan City, Wakayama Prefecture, spider *sumo* fighting competition has been held since 2000 by the non-profit organization Biotope Mohko. The fighting arachnids is ‘Kogane-spider’, or *Argiope amoena*.

Through the years, the orb web spider *Argiope amoena* L. Koch 1878 (Araneae: Araneidae) has received attention because the population has been declining in various regions of Japan. This study investigated the distribution and population size of *A. amoena* in Mohko-Fudodani in 2024 to clarify the inhabitation status of this species. The result suggests that the population size of this species is not large there.

In order to pass on spider *sumo* to the future, it is important to first protect the nature where spiders live.

I am obliged to thank Mr. Masaki Sakamoto and Mr. Satoru Arimoto (the non-profit organization Biotope Mohko) for planning the research and facilitating the investigation. I would like to express my sincere gratitude to Mr. Kengo Iwatsuki (Graduate School, Nagoya University) for reading the manuscript of this article and providing advice. This study was supported by a COSMO eco fund.

はじめに

「NPO 法人 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子所蔵リスト」(東條清が 2001 年 11 月に集約した「孟子不動院那賀寺の参道及びビオトープ人工池周辺のクモ類目録」に、吉田誠、山口雄司、山田さやか、藤田昂己の確認記録を補充したもの)によれば、和歌山県海南市孟子不動谷では現在までに 16 科 68 種のクモ類が確認されている。リストでは、コガネグモ(クモ目コガネグモ科; 以下、本種)の分布も報告されている(自然回復を試みる会・ビオトープ孟子 2008)。

クモを闘わせる子どもたちの遊びは、かつて日本で広く行われていた(川名・斎藤 1985)。この遊びはほとんどの土地で消え去ったが、クモを闘わせる遊びのうち、2 匹の本種を横棒の土俵上で闘わせるコガネグモ相撲は、現在おとなたちによって組織化・行事化され保存継承されている(関根 2011)。

NPO 法人 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子の「こがねぐも相撲大会」は、同



図 1. こがねぐも相撲大会. 左: 2005 年 7 月 17 日孟子不動谷. 右: 2009 年 7 月 12 日わんぱく公園.

Fig. 1. The spider *sumo* fighting competition. Left: July 17, 2005 at Mohko-Fudodani. Right: July 12, 2009 at Wanpaku Park. The banner reads that "The traditional cultural heritage of Satoyama".

会の設立当初よりアドバイザーとして助力し、孟子不動谷を観察フィールドとしてクモ類の調査をしていた東條清が、2000 年 7 月、孟子不動谷で第 1 回大会を開催したことにより始まった（自然回復を試みる会・ビオトープ孟子 2008）。2009 年 12 月、孟子不動谷が第 1 回ユネスコ未来遺産登録されたことを機に（有本 2023）、「こがねぐも相撲大会」は、「未来遺産運動」の一環、こども伝統文化として、継続して開催されている（図 1）。

さて近年、「こがねぐも相撲大会」に用いられる本種の個体数の減少は、日本各地で注目されている（関根 2014）。草地・耕作地の種の多くが、かつては普通種であったが、現在は絶滅危惧種となっており、本種はそうした草地・耕作地に生息する種の指標種に選定されている（「生き物から見た東京の自然」編集検討委員会 2015）。今回、孟子不動谷における本種の生息調査を行った。その結果、現時点における本種の生息状況の概略を把握できたので、ここに報告する。

方法

調査は、本種の成体出現期である 6 月に（新海 2017）、ルートセンサス法により行った。調査ルート 1 と調査ルート 2 を設定し、2024 年 6 月 23 日に調査ルート 1、6 月 29 日に調査ルート 2 を探索した。調査ルートを歩きながら周辺に出現する本種を目視で確認した。観察幅は調査ルートから草地に造網している本種を視認できる範囲とした。調査ルートを図 2 に示す。本種の雌は腹部上面の斑紋と体が大きいことにより、同属の他種から見分けることができる（谷川 2009）。ルートセンサス法は、観察範囲が限られるため、本種の個体数を記録するのに適している。また、発見能力を要求されることがないことからバイアスのかからないデータを得られる利点がある。さらに、ルートを固定することで経年的な比較も可能となる。

本種の個体群密度の測定法として次の方法を採用した。すなわち、本種の生息が確認できた場合、その地点を生息確認地点とし、そこを中心とした $5\text{ m} \times 5\text{ m}$ の範囲内でクモの個体数を記録するという方法である。 $5\text{ m} \times 5\text{ m}$ の範囲 (25 m^2) は、垂直円網の中心に止まっている本種を一瞥できる範囲であり、正確に個体数を記録することができる（関根 2014）。生息確認地点の緯度経度は、GPS アプリ Geographica を用いて測定した。

また、環境省第7回自然環境保全基礎調査植生図調査（2005～2009年度）の成果を使用し、調査ルート周辺の植生を調べ、現時点における植生と比較した。

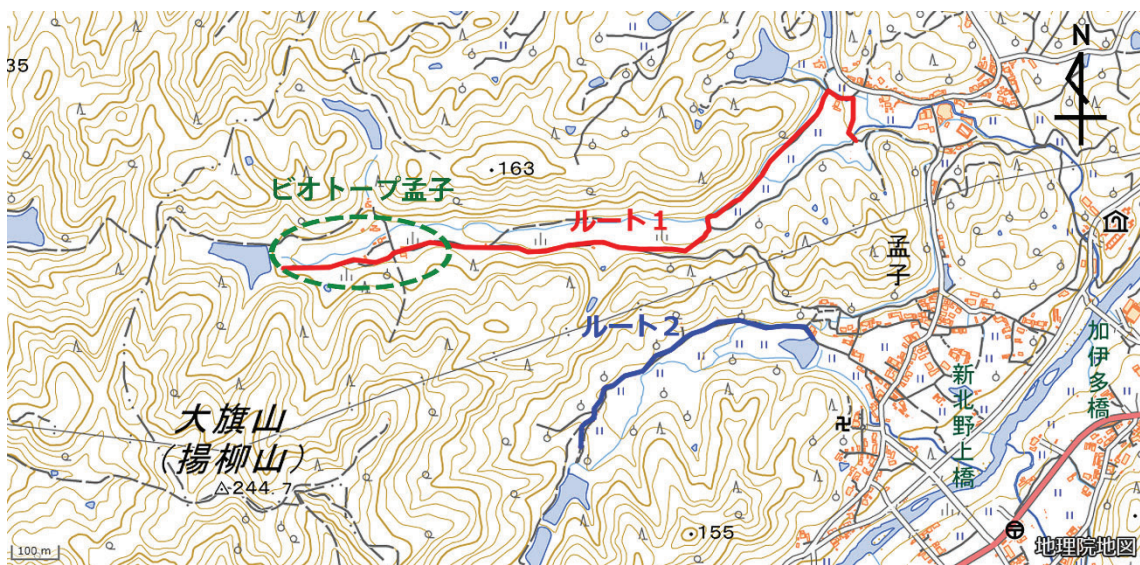


図 2. 孟子不動谷におけるコガネグモ調査ルート（2024年）。ビオトープ孟子の敷地範囲を点線で示す。背景には、国土地理院の地理院地図を使用した。

Fig. 2. Map shows the research route in Mohko-Fudodani in 2024. The site area of the non-profit organization Biotop Mohko is indicated by a dotted line.

結果

調査地の環境要素は、調査ルート1と調査ルート2ともに棚田地形の放棄水田、谷の南北を東西に走る丘陵地に形成されている森林（アベマキとコナラやクリに、カシなどの常緑広葉樹とマダケやスギが混生する）、谷に点在する数個のため池であった。加えて、調査ルート1は貴志川支流の荒糸川と農業用水路、調査ルート2は農業用水路であった。調査ルート1沿いには、 991.7 m^2 （1反）の水田耕作地が1枚あった。環境省第7回自然環境保全基礎調査植生図調査（2005～2009年度）の成果では、調査地の植生は水田雑草群落とアベマキ・コナラ群集が広範囲を占め、他に果樹園、竹林、シイ・カシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林と開放水域であることから、ほぼすべての水田が耕作放棄され、アベマキ・コナラ群集であった里山林が常緑樹化している

ことが確認された。調査ルート沿いの広範囲にわたって放棄水田雑草群落が占めており、そこでは多年生草本のセイタカアワダチソウが優占していた（図 3）。

調査ルート沿いの 13 地点でコガネグモの生息が確認された。コガネグモの合計確認個体数は 22 個体であり、いずれもセイタカアワダチソウに造網していた（図 4）。調査結果を図 5 と表 1 に示した。本種が確認された 13 地点のうち、25 m² の範囲内で 5 個体以上が記録された地点はなく、本種の個体群密度（個体数/25 m²）の高い場所はなかった。13 地点の個体群密度の平均値は 1.7（標準偏差 0.85）であった。

なお、6 月 23 日の気温は 26°C、天候：小雨、6 月 29 日の気温は 26°C、天候：曇りで、両日ともに調査にかかった時間は 2 時間であった。

考察

本種の生息状況について、個体群密度に基づく定量的評価を行っている報告はほとんどないことから、ここでは本種の生息状況を定量的に調べた奈良県における調査と比較して検討する。奈良県における 2013–2014 年調査で、本種は奈良県下 191 地点のうち 101 地点で生息が確認され、そのうち 25 m² の範囲内で 5 個体以上（以下、5 個体以上/25 m²）が記録されたのは 16 地点（15.8%）であった（関根 2014）。また、奈良盆地について、2013–2014 年調査では 85 地点のうち 58 地点で生息が確認され、そのうち 5 個体以上/25 m² は 9 地点（15.5%）、2019 年調査では 85 地点のうち 34 地点で生息が確認され、そのうち 5 個体以上/25 m² は 5 地点（14.7%）であった（関根 2020）。

孟子不動谷における調査はルートセンサス法を用いたことから、奈良県における生息確認地点数との比較はできないが、5 個体以上/25 m² という個体群密度の高い地点が記録されなかったことは注目に値する。奈良県において 2013–2014 年と 2019 年の 2 期ともに生息が確認された 28 地点は、本種が生息できる環境が維持されている場所と考えられる。これらの地点での個体群密度（個体数/25 m²）の平均値は、2013–2014 年 3.1（標準偏差 2.9）、2019 年 2.7（標準偏差 2.1）であった（関根 2020）。一方、孟子不動谷においては、個体群密度の平均値 1.7（標準偏差 0.85）であり、奈良県と比べて小さかった。さらに、奈良県においては個体群密度が 7 個体/25 m²～10 個体/25 m² という地点もあったが、孟子不動谷の個体群密度は 3 個体/25 m² に止まっていた（表 1）。以上のことから、孟子不動谷における本種の生息状況は良好とはいえないであろう。

奈良県における 2013–2014 年調査では、本種の生息密度と本種の生息確認地点の半径 100 m 円内の土地利用面積のうちの水田雑草群落の面積の割合に相関がみられた（関根 2014）。したがって、孟子不動谷では水田耕作地が少ないことが本種の生息密度が小さい要因の一つと考えられる。

本種のような造網性のクモ類は、土壤中の腐食連鎖から発生する昆虫類に支えられており（Shimazaki & Miyashita 2005）、コガネグモの生息密度が比較的高くなる条件としては、春先に湿潤な土壌から由来する双翅類が幼齢期のクモの餌となり、初夏の成長期にはコガネムシ類など大型の餌が利用できる環境の組み合わせが重要であると



図 3. 調査地の放棄水田雑草群落. 多年生草本のセイタカアワダチソウが優占する (2024年6月23日).

Fig. 3. Landscape of the survey area. A weed community in an abandoned rice paddy field where goldenrod grows (June 23, 2024).



図 4. セイタカアワダチソウに造網するコガネグモ (2024年6月29日).

Fig. 4. The orb web spider *Argiope amoena* weaves a web on goldenrod stems (June 29, 2024).

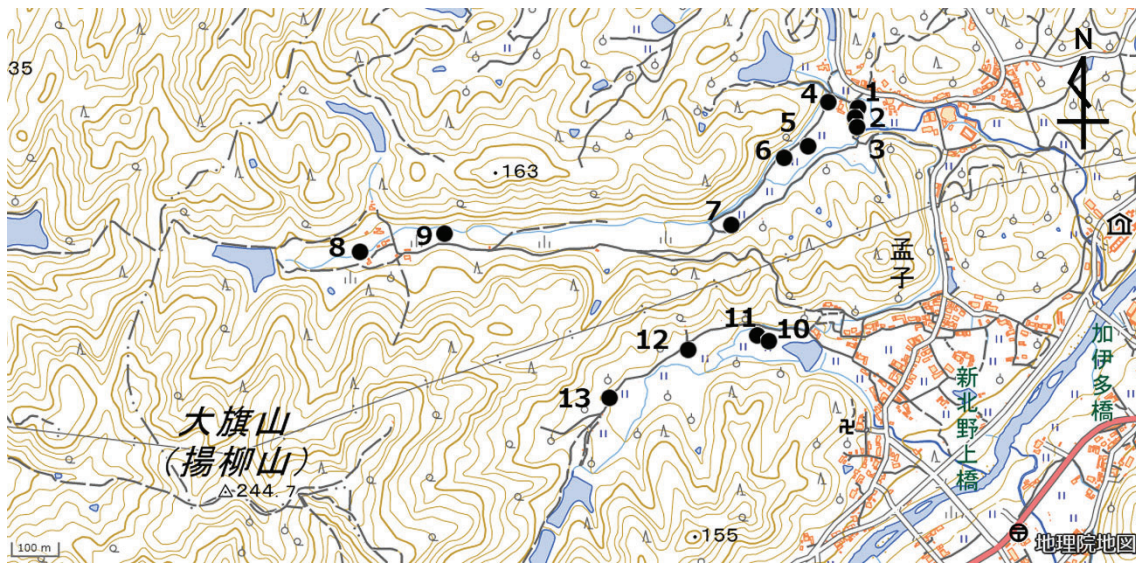


図 5. 孟子不動谷におけるコガネグモの調査結果 (2024 年). 地点番号は表 1 と対応する. 背景には, 国土地理院の地理院地図を使用した.

Fig. 5. Distribution of *Argiope amoena* in Mohko-Fudodani in 2024. Map shows the inhabited sites and the site numbers for species. The site numbers correspond to those in Table 1.

表 1. コガネグモの生息確認地点の個体群密度と植生 (2024 年).

Table 1. Population density and vegetation of the inhabited sites of *Argiope amoena* in 2024.

地点番号	個体群密度	植 生
1	1	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
2	1	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
3	3	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
4	1	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
5	3	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
6	3	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
7	1	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
8	2	ビオトープ孟子地内 セイタカアワダチソウ群落
9	1	ビオトープ孟子地内 セイタカアワダチソウ群落
10	2	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
11	1	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
12	1	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
13	2	放棄水田 セイタカアワダチソウ群落
平均値	1.7(0.85)	

個体群密度の値は, 個体数/25 m², 括弧内の数値は標準偏差を示す.

Population density value is the number of individuals per 25 square meters, and number in parentheses indicates standard deviation.

指摘されている (八幡 2005). コガネグモの生息適地は、くぼ地地形と森と川と草地のモザイク的組み合わせであるという仮説が提唱されており、神奈川県東部の生息地では、ほぼこの仮説で説明されたと報告されている (池田ら 2007). また、里山の二次草地のクモ類について、森林と水田が適度に混合した景観で個体数が多く、その原因として森林と水田の両方の生態系から由来する昆虫類による餌条件の向上、二次草地の人為的攪乱からの逃避地としての森林の役割が考えられると報告されている (Miyashita *et al.* 2012). これらのことから、里山林、ため池と用水路、水田など質の異なる環境の組み合わせをモザイク的に持つ里山環境は、本種の発育に必要な餌資源をその発育段階に応じて順次供給すると考えられること、本種が成長期に造網する大型垂直円網の足場となる丈の高い草や灌木あるいは農作業小屋の軒先が存在することから、本種の生息適地と考えられる。

そこで、孟子不動谷の環境と本種の餌資源昆虫類の種組成・生息状況について考えてみる。孟子不動谷ではチョウ類 68 種、およびチョウを除くその他の昆虫類 686 種と多種多様な昆虫類が報告されており、湿潤な土壌から発生する双翅類や大型のコガネムシも記録されている。しかし近年、新たな滞水環境 (とんぼ池) を新設しても水生昆虫の増加がみられず、水生甲虫類や水生半翅類の種組成が年々貧弱になっていると報告されている。その要因として、放棄水田の増加により水生昆虫が隣接する稲作水田環境を行き来し交流しながら命を繋いでいくことが難しくなっていること、定期的間伐管理が滞って数十年を経た丘陵地に広がる雑木林の複層化および常緑樹化により陽光が差し込まなくなることによる水生昆虫への負の影響という二つの要因の複合的影響の可能性が指摘されている (有本 2023)。

この仮説に関しては今後の検証が必要となるが、クモ類の餌資源である昆虫類の生息状況はクモ類の生息密度に大きく影響する。したがって、ここでは可能性のうちの一つを述べるにとどまるが、本種の生息密度が小さい要因として、放棄水田の増加と里山林の常緑樹化という二つの要因の複合的影響による水生昆虫類の減少など、餌条件の低下が考えられる。

次に、本種の造網空間について検討する。孟子不動谷では、セイタカアワダチソウが優占する放棄水田雑草群落が広い範囲を占めている。セイタカアワダチソウ群落においては、セイタカアワダチソウが密集して生育しており、そのため本種が網を張る空間を確保できないことが、本種の生息密度が小さい要因の一つと考えられる。これに関連して、放棄水田における植生の遷移に伴うクモ群集の変化について、水田放棄直後は植物の多様性増加に伴ってクモの個体数が急激に増加し、その後、セイタカアワダチソウ群落、ヨシ群落、クズ群落へと植生が移り変わる過程でクモの個体数が減少し、種組成は大きく変化するとの報告がある (Baba *et al.* 2019). 本種の生息密度とセイタカアワダチソウの群落構造の関連については、さらなる研究が必要である。

いうまでもないことであるが、「こがねぐも相撲大会」を未来に引き継いでいくためには、コガネグモが生息する自然を守ることが大切である。

謝辞

今回の調査を企画された NPO 法人 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子の坂本雅城理事長と有本智理事には調査の便宜を図って頂いた。岩月健吾氏（名古屋大学大学院）には本稿について有益な助言を頂いた。ここに記し感謝の意を表します。本研究は、令和 6 年度 COSMO エコ基金の助成により実施しました。

引用文献

- 有本智 2023. 孟子不動谷における里山環境復元事業. 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子 (海南), 160 pp.
- Baba, Y. G., Tanaka, K. & Kusumoto, Y. 2019. Changes in spider diversity and community structure along abandonment and vegetation succession in rice paddy ecosystems. *Ecological Engineering*, 127: 235–244.
- 池田博明・谷川明男・初芝伸吾・安藤昭久・貞元己良・新海栄一 2007. II クモ類. Pp. 269–274. In: 丹沢大山総合調査団 (編), 丹沢大山総合調査学術報告書. (財) 平岡環境科学研究所 (相模原).
- 「生き物から見た東京の自然」編集検討委員会 (監修)・株式会社地域環境計画 (編) 2015. 生き物から見た東京の自然—東京の環境指標種 100. 三菱 UFJ 環境財団 (東京), 160 pp.
- 川名興・斎藤慎一郎 1985. クモの合戦 虫の民俗誌. 未来社 (東京), 238 pp.
- Miyashita, T., Chishiki, Y. & Takagi, S. R. 2012. Landscape heterogeneity at multiple spatial scales enhances spider species richness in an agricultural landscape. *Population Ecology*, 54: 573–581.
- 関根幹夫 2011. コガネグモ相撲における横棒土俵の扱い方に関する一考察. *くものいと*, 45: 1–10.
- 関根幹夫 2014. 奈良県におけるコガネグモ *Argiope amoena* の分布と個体群サイズ. *地域自然史と保全*, 36(2): 115–124.
- 関根幹夫 2020. 奈良盆地におけるコガネグモ *Argiope amoena* の分布と生息状況: 2013–2014 年と 2019 年の比較. *地域自然史と保全*, 41(1): 61–65.
- Shimazaki, A. & Miyashita, T. 2005. Variable dependence on detrital and grazing food webs by generalist predators: aerial insects and web spiders. *Ecography*, 28: 485–494.
- 新海栄一 2017. 日本のクモ 増補改訂版. 文一総合出版 (東京), 407 pp.
- 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子 2008. 北野上・山東地誌 ～消え行く農村文化の次世代への伝承のために～. 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子 (海南), 330 pp.
- 谷川明男 2009. コガネグモ科. Pp. 420–463. In: 小野展嗣 (編), 日本産クモ類. 東海大学出版会 (秦野), xvi + 738 pp.
- 八幡明彦 2005. クモのいる自然環境を守るとはどういうことか. *Acta Arachnologica*, 54: 147–153.

空飛ぶヒゴユウレイグモ

熊田憲一

ヒゴユウレイグモ *Pholcus higoensis* Irie & Ono 2008 は不思議な環境に生息するクモで、倒れた竹の節を割って採集します。割れ目のないような竹の節にどうやって入ったのか、また餌の採取はどうなっているのか興味深いクモであります。記載者の一人である入江さんの呼びかけに多くの方が賛同し、竹を割っての調査協力があり、情報が寄せられてかなり広範囲に分布していることもわかってきました。

2023年11月22日、思わぬ状況で上記のヒゴユウレイグモを確認しました。それは、滋賀県の蔵王ダムにダムカードを収集に行った折りでした。カード収集と共にその日も堰堤を歩いて欄干の手すりから糸を引いて飛び立とうとしているサラグモなどを観察して回っていました。

蔵王ダムは鈴鹿山地の西側、三重県と滋賀県を東西に結ぶ国道477号線沿いに位置し、岩を積み上げたロックフィルダムで堰堤の堤高は56m、堤頭の標高は311m、眼下の谷から遠くまで見渡せます。

風は平野側からの西風で、微風からちょっと強くなった感じで下から吹き上げるように吹いていました。クモたちは欄干から糸を引いて飛んで行くもの、残った糸に静止しているものも見られました。夕暮れが近くなり気温も下がってきて風もすこし強くなってきたのでクモの数は少なくなっていました。沢山の糸が残っていてここから多くのクモが飛び立ったことが察せられました。そんな中、欄干から少し糸で下がって流し糸を出しているクモを見つけました。

ユウレイグモにしては太っていて、イエユウレイグモの幼体にしては脚が華奢なクモです。そのクモが飛び立とうと糸を流していました。飛び立ちそうだったので急いで採集し、帰宅後検鏡したところヒゴユウレイグモであることが分かりました。確認のため三重で竹の中から採集したヒゴユウレイグモと検鏡下で比較しましたが間違いありませんでした。採集地点のダム堰堤は近くにも周辺にも竹林はありませんでした。

今まで竹の中から採集されたという話のみで、それ以外の環境からの採集例は聞いたことがありませんでした。竹の中という閉鎖空間に生息するクモが広範囲に分布していることから、どのように生息範囲を維持しているか不思議でありました。今回1例だけではありますが、バルーニングという行動を観察することが出来ました。ヒゴユウレイグモが竹以外の所でも移動活動していた、ということを観察し、竹の中にどのようにして入るのか、またどのように出てくるかなど疑問は多く残りますが、生態の一端を垣間見ることが出来ました。

参考文献

入江照雄 2016. ヒゴユウレイグモの生息環境と分布. *Kishidaia*, 108: 23–28.

Irie & Ono 2008. A new species of the genus *Pholcus* (Araneae, Pholcidae) from Kumamoto Prefecture, Kyushu, Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Tokyo (A)* 34: 95–98.

貝發憲治 2022. ヒゴユウレイグモがいっぱいいた！しのびぐも, 49: 36–37.

緒方清人 2011. 愛知県産クモ目録追加種 (III). 蜘蛛, 44: 52–54.



図 1. ヒゴユウレイグモ腹面.

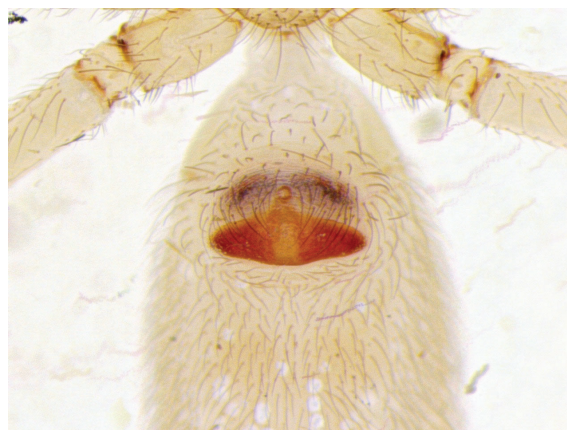


図 2. ヒゴユウレイグモ外雌器.



図 3. 蔵王ダム堤体.



図 4. 堰堤上の柵.

滋賀県におけるクモのデータ整理及び新記録種の報告

熊田憲一

滋賀県産クモの記録は、同県で実施されている「滋賀県生きもの総合調査・その他陸生無脊椎動物」の報告書で毎年更新されている。2023年度の報告では44科453種が報告されていた。その後の検証により目録中マルサラグモが重複記録されていることが判明し、実質452種の報告となった。

本調査を担当されていた吉田真先生が引退され、2024年度以降を熊田が担当することとなった。調査を実施するにあたり、2023年秋から現地予備調査を開始するとともに文献等の内容について再確認を行った。その結果記録漏れと思われる種や再検証が必要と思われる種が抽出された。要再検証と判断した種に関しては吉田先生のご協力のもと、再同定することが出来た。その結果、誤同定と判定した種は今年度の報告において削除した。なお、別途理由（下記詳細参照）により削除とした種も併せて本編にて報告する。

1. 削除した種（10種）

a. 誤同定が判明した種（7種）

Pseudomicrargus asakawaensis (Oi 1964) アサカワゴマグモ

→*Pseudomicrargus acutitegulus* (Oi 1960) ホソテゴマグモの誤同定

Ummeliata angulituberis (Oi 1960) コトガリアカムネグモ

→*Ummeliata insecticeps* (Bösenberg & Strand 1906) セスジアカムネグモの誤同定

Ummeliata erigonoides (Oi 1960) トガリアカムネグモ

→*Ummeliata feminea* (Bösenberg & Strand 1906) アトグロアカムネグモの誤同定

Pardosa laevitarsis Tanaka & Suwa 1986 タテスジハリゲコモリグモ

→*Pardosa agraria* Tanaka 1985 イナダハリゲコモリグモの誤同定

Chiracanthium erratittha Bösenberg & Strand 1906 アカスジコマチグモ

→*Trachelas japonicus* Bösenberg & Strand 1906 ネコグモの誤同定

Ostearius melanopygius (O. P.-Cambridge 1879) スソグロサラグモ

→*Diplocephaloides saganus* (Bösenberg & Strand 1906) ハラジロムナキグモの誤同定

Neserigone nigriterminorum (Oi 1960) ハシグロナンキングモ

→*Tmeticus neserigonoides* Saito & Ono 2001 ナンキンヌカグモの誤同定

b. 誤同定が疑われるが再同定に至らなかった種（1種）

Misumena vatia (Clerck 1758) ヒメハナグモ

雌幼体で記録されているこのクモは非常に稀な種で、幼体での同定は困難と考える。*Ebrechtella tricuspadata* (Fabricius 1775) ハナグモの可能性が高いが、再同定には至らなかった。正確な記録がされるまで保留とする。よって今年度はリストより削除した。

c. 報告された個体が別種であることが判明した種 (1種)

Solenysa mellottei Simon 1894 アリマネグモ

大井 (1960) が伊吹山産の個体で記述したアリマネグモの標本は、後にカンサイアリマネグモ *Solenysa partibilis* Tu, Ono & Li 2007 のタイプ標本となった。よってアリマネグモの記録は目録より消滅。

d. 新種報告により分布域に生息しないことが明らかになった種 (1種)

Coelotes yahagiensis Nishikawa 2009 ヤハギヤチグモ

Coelotes nojimai Okumura & Zhao 2021 オウミヤチグモが新種記載された。ヤハギヤチグモが報告されていた調査地域で生息しているのはオウミヤチグモであることが判明したため削除。

2. 記録漏れが判明した種及び新たに確認された種

a. 文献の確認によって記載漏れが判明した種

Arcuphantes ashifuensis (Oi 1960) アシュウヤミサラグモ：くものいと 27 にて報告あり。
Phrurolithus nipponicus Kishida 1914 ウラシマグモ：くものいと 27 にて報告あり。

b. 国立科学博物館収蔵標本のうち未記録であった種

2024年11月の確認時には146記録99種が滋賀県産として国立科学博物館に収蔵されている。その中で次の3種を確認しリストに加えた。

Helicius chikunii (Loguniv & Marusik 1999) チクニハエトリ：NSMT-Ar. 11904 野洲市。

Heliophanus ussuricus Kulczynski 1895 ウスリーハエトリ：NSMT-Ar. 11919 守山市。

Sibianor nigriculus (Logunov & Wesolowska 1992) クロツヤハエトリ：NSMT-Ar. 11898 野洲市，NSMT-Ar. 11920 守山市。

c. CD 日本のクモ 2024 に記録が反映されていない種

2023年報告 (吉田・熊田 2023) に種名はあるが、次の15種の記録が「CD 日本のクモ 2024 (新海ら 2024)」には反映されていなかった。

ハモンヒメグモ*、コケオニグモ*、アシボソケシグモ、クロテナガグモ*、ノコギリヒザグモ*、ヤマトケズネグモ、キノボリキヌキリグモ*、ミヤマナンキングモ*、ナンキンヌカグモ、ヤマトトウジヌカグモ*、エゾウズグモ*、ノウゴウクロヤチグモ、タロウヤマハタケグモ、オガタフクログモ*、タカノハエトリ。

このうち、アスタリスク (*) を付した9種については、長浜市木之本町金居原における記録として、すでに熊田 (2024) が報告している。それ以外の6種の記録を次項にて報告する。

3. 新たな採集記録が明らかになった種と滋賀県新記録種

行政区統合前の住所表示は現在の住居表示とした。記号の意味は次のとおり：F, 雌成体; M, 雄成体; f, 雌幼体; m, 雄幼体。数字は個体数を示す。採集者名がないものは熊田憲一が採集。

01. *Gamasomorpha kusumii* Komatsu 1963 クスミダニグモ
長浜市中野町矢合神社, 20211008, 1F (石井清); 栗東市高野高野神社, 20240426, 1M; 愛荘町川原御崎神社, 20241013, 2F1M.
02. *Ischnothyreus narutomii* (Nakatsuji 1942) ナルトミダニグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 1F (石井清).
03. *Orchestina okitsui* Oi 1958 オキツハネグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 1f (石井清).
04. *Telema nipponica* (Yaginuma 1972) ヤマトヤギヌماغモ
甲賀市信楽町多羅尾御斎峠, 20231114, 1f; 東近江市政所町石樽峠, 20241101, 3F.
05. *Pholcus higoensis* Irie & Ono 2008 ヒゴユウレイグモ
日野町蔵王蔵王ダム, 20231122, 1F.
06. *Spermophora senoculata* (Duges 1836) シモングモ
湖南市石部西吉御子神社, 20240906, 1f; 近江八幡市御所内町出雲神社, 20240707, 2F; 日野町小野鬼室神社, 20240726, 2F; 米原市天満天満宮, 20240929, 1f.
07. *Campanicola ferrumequina* (Bösenberg & Strand 1906) ヒザブトヒメグモ
近江八幡市安土町内野岩戸山, 20240707, 1F.
08. *Chikunia subrapulum* (Zhu 1998) カブラヒメグモ
日野町音羽音羽城址, 20240611, 1F; 甲賀市信楽町牧岩倉川, 20240615, 2F1M, 20241001, 1F1f1m.
09. *Chrosiothes sudabides* (Bösenberg & Strand 1906) ヨツコブヒメグモ
野洲市小南國生神社, 20241108, 1m; 湖南市三雲, 20240906, 1f; 彦根市小野町八幡神社, 20240604, 1M.
10. *Coleosoma octomaculatum* (Bösenberg & Strand 1906) ヤホシヒメグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 5f1m (山本佳範); 草津市志那中町, 20241029, 1F1f; 守山市杉江町小津神社, 20240412, 2m; 栗東市上砥山日吉神社, 20241119, 43f49m; 野洲市小堤, 20241108, 7f2m, 小南國生神社, 20241108, 12f11m; 竜王町須恵, 20241022, 2f, 薬師鳴谷, 20241022, 3f2m; 近江八幡市安土町中屋竜石山, 20241029, 5m (山本佳範), 浄土寺町天神社, 20241129, 4f1m, 南津田町, 20241206, 1F1f; 豊郷町四十九院春日神社, 20240308, 1m; 甲良町尼子, 20240503, 1M, 尼子甲良神社, 20240823, 1f; 彦根市石寺町荒神山, 20240308, 1F1f1m, 日夏町唐崎神社, 20240308, 1f3m.
11. *Coscinida japonica* Yoshida 1994 トガリクサチヒメグモ
湖南市三雲, 20240331, 2F.
12. *Enoplognatha caricis* (Fickert 1876) ヤマトコノハグモ
草津市志那中町, 20241029, 5f1M1m, 志那町志那神社, 20240627, 1f; 守山市幸津川町大水口神社, 20241029, 2f2M1m, 杉江町小津神社, 20240412, 15F2M; 栗東市上砥山日吉神社, 20241119, 3f3m; 野洲市小堤, 20241108, 1M1m, 小南國生神社, 20241108, 5f3m; 竜王町須恵, 20241022, 56f1M17m; 近江八幡市安土町内野, 20240707, 1f, 南津田町, 20241206, 1F3M; 日野町三十坪八千銚神社, 20241006, 1f, 蔵王蔵王ダム, 20240131, 1m; 甲賀市甲賀町鳥居野大鳥神社, 20240515, 1F; 東近江市永源寺相谷町

- 永源寺ダム, 20231220, 1m, 平柳町宇曾川ダム, 20231122, 2f1m, 妹町愛知川, 20030511, 1F; 愛荘町川原御崎神社, 20241013, 1f, 甲津原矢谷, 20240927, 1f, 天満天満宮, 20240929, 5y, 本庄町, 20241013, 33f8m.
13. *Euryopsis nigra* Yoshida 2000 クロヒラタヒメグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 2f1m; 野洲市小南國生神社, 20241108, 1f.
14. *Keijiella oculiprominens* (Saito 1939) キヨヒメグモ
高島市今津町角川石田川ダム, 20240607, 1f, 守山市新庄町(NSMT-Ar. 11910, 20050801, 1F).
15. *Lasaeola yoshidai* (Ono 1991) ヨシダミジングモ
長浜市余呉町中河内栃ノ木峠, 20240519, 1F; 甲賀市信楽町多羅尾御齊峠, 20231114, 1m, 土山町笹路, 20240414, 1M; 東近江市北菩提寺町押立神社, 20240512, 1F; 愛荘町川原御崎神社, 20241013, 1f1m.
16. *Meotipa vesiculosa* Simon 1894 ヒシガタヒメグモ
草津市馬場町八幡宮, 20241119, 1y; 栗東市荒張, 20241015, 1F1f, 上砥山日吉神社, 20241119, 2f; 湖南市三雲, 20240825, 5F, 20240906, 2F1f; 竜王町薬師鳴谷, 20240730, 6F, 20241022, 3F4f13y; 近江八幡市浄土寺町天神社, 20241129, 1f4y; 甲賀市信楽町勅旨, 20241001, 1F, 信楽町牧岩倉川, 20241001, 1F1f4y; 愛荘町斧磨, 20240806, 2f; 米原市柏原神明神社, 20240617, 1F.
17. *Phycosoma nigromaculatum* (Yoshida 1987) クロホシミジングモ
栗東市荒張, 20241015, 2F; 湖南市三雲, 20240906, 1M; 竜王町薬師鳴谷, 20240405, 1F, 20240730, 1F2M, 20241022, 1M; 甲賀市信楽町牧岩倉川, 20241001, 1F1M; 愛荘町斧磨, 20240806, 1F.
18. *Platnickina mneon* (Bösenberg & Strand 1906) サトヒメグモ
甲賀市甲賀町鳥居野大鳥神社, 20240515, 4F2f1M, 甲賀町油日油日神社, 20240507, 1f; 東近江市小脇町阿賀神社, 20241029, 1f (山本佳範).
19. *Theridion nojimai* Yoshida 1999 ノジマヒメグモ
甲賀市甲南町杉谷岩尾池, 20240613, 1M.
20. *Theridula iriomotensis* Yoshida 2001 イリオモテヒメグモモドキ
甲賀市信楽町多羅尾御齊峠, 20231114, 2F.
21. *Theridiosoma fulvum* Suzuki, Serita & Hiramatsu 2020 アメイロカラカラグモ
草津市志那町志那神社, 20240627, 1m; 甲賀市土山町笹路, 20240610, 1M; 甲良町尼子, 20240823, 1f; 彦根市小野町八幡神社, 20240604, 1F.
22. *Wendilgarda nipponica* Shinkai 2009 ナルコグモ
東近江市君ヶ畑町, 20200922, 1f.
23. *Zoma dibaiyin* Miller, Griswold & Yin 2009 シロオビカラカラグモ
栗東市井上九品の滝, 20241015, 1f; 近江八幡市宮内町鶴翼山, 20211007, 1m (石井清).
24. *Microdipoena ogatai* (Ono 2007) ヤマトコツブグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 4f, 余呉町中河内廣峯神社, 20240519, 1f, 余呉町中之郷西天神宮, 20210802, 1F; 高島市朽木村井八幡神社, 20240607, 1f, 今津町酒波,

20200926, 1m.

25. *Crassignatha kishidai* (Shinkai 2009) ユアギグモ

高島市朽木村井八幡神社, 20240607, 4F1f; 甲賀市信楽町牧岩倉川, 20241001, 1M, 土山町黒滝田村川, 20240622, 11F1M1m.

26. *Araneus stella* (Karsch 1879) ツノオニグモ

高島市朽木小入谷おにゅう峠, 20240813, 4f.

27. *Cyclosa alba* Tanikawa 1992 シロゴミグモ

栗東市上砥山日吉神社, 20241119, 1F; 近江八幡市安土町中屋竜石山, 20241029, 1m (山本佳範); 日野町鎌掛屏風岩, 20240327, 1f, 村井日野川ダム, 20240327, 1m; 甲賀市土山町大河原野洲川ダム, 20241103, 1y, 土山町前野瀧樹神社, 20240728, 1f; 愛荘町斧磨, 20240806, 1f.

28. *Tekellina sadamotoi* Yoshida & Ogata 2016 サダモトヒメグモ

草津市馬場町八幡宮, 20241119, 1F; 湖南市三雲, 20240906, 1f; 竜王町川守天神社, 20240730, 1f, 薬師鳴谷, 20240730, 1f; 甲賀市甲賀町滝, 20030510, 1M.

29. *Tetragnatha nitens* (Audouin 1827) ヒカリアシナガグモ

長浜市田村町田村緑地, 20241027, 3F2f2M.

30. *Agyneta nigra* (Oi 1960) クロケシグモ

長浜市高山町鳥越峠, 20241027, 1M.

31. *Agyneta tenuipes* (Ono 2007) アシボソケシグモ (文献記録なし)

竜王町薬師鳴谷, 20240405, 1F2M, 20240730, 1M, 20241022, 3f3M4m; 甲賀市信楽町多羅尾高宮神社, 20240615, 1F, 信楽町牧岩倉川, 20241001, 1F, 土山町黒滝, 20030510, 3F.

32. *Arcuphantes ashifuensis* (Oi 1960) アシュウヤミサラグモ (文献記録もれ)

高島市鹿ヶ瀬 (1999826, 1F, 西川喜朗, くものいと 27).

33. *Entelecara dabudongensis* Paik 1983 コウライホテイヌカグモ

米原市甲津原矢谷, 20240625, 3F.

34. *Erigone edentata* Saito & Ono 2001 マルムネヒザグモ

東近江市平柳町宇曾川ダム, 20231122, 4F3M.

35. *Floronia exornata* (L. Koch 1878) ハナサラグモ

竜王町薬師鳴谷, 20240730, 2f.

36. *Gonatium japonicum* Simon 1894 ヤマトケズネグモ (文献記録なし)

大津市伊香立町北在地, 20141108, 1F (吉田真); 湖南市三雲, 20240906, 1m; 日野町三十坪八千銚神社, 20241006, 3f; 甲賀市甲賀町神大沢貯水池, 20151124, 1F (吉田真), 信楽町牧岩倉川, 20241001, 2m; 愛荘町川原御崎神社, 20241013, 4f4m.

37. *Kagurargus kikuyai* Ono 2007 カグラゴマグモ

高島市朽木桑原, 20231123, 1F (佐藤英文).

38. *Nematogmus stylitus* (Bösenberg & Strand 1906) ズダカサラグモ

野洲市小堤, 20241108, 3M; 甲賀市土山町黒滝, 19990401, 1F, 土山町笹路, 20240414, 3F.

39. *Nerienne marginella* (Oi 1960) コシロブチサラグモ
長浜市高山町鳥越峠, 20241027, 1f1m, 木之本町金居原土倉谷, 20220428, 1m ; 高島市朽木小入谷おにゅう峠, 20240813, 5F3M4f15y ; 東近江市政所町石樽峠, 20241101, 2f4m ; 米原市甲津原奥伊吹, 20241026, 1f (鶴崎展巨).
40. *Paikiniana lurida* (Seo 1991) タイリクテングヌカグモ
東近江市五個荘川並町織山, 20211007, 1F (石井清) ; 米原市上平寺川戸谷, 20180326, 2F.
41. *Paikiniana mira* (Oi 1960) テングヌカグモ
日野町三十坪八千鎰神社, 20240611, 1F ; 東近江市甲津畑町, 20241210, 1F.
42. *Paratapinocyba oiwa* (Saito 1980) オオイワヤマトコナグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 1F (佐藤英文).
43. *Saitonia kawaguchikonis* Saito & Ono 2001 カワグチココヌカグモ
甲賀市土山町黒滝, 20240622, 1F.
44. *Solenysa ogatai* Ono 2011 アイチアリマネグモ
東近江市政所町石樽峠, 20241101, 2F1M.
45. *Tmeticus neserigonoides* Saito & Ono 2001 ナンキンヌカグモ (文献記録なし)
長浜市西浅井町山門, 20120602, 1F ; 栗東市井上九品の滝, 20240426, 2F2M.
46. *Walckenaeria chiyokoae* Saito 1988 オオクマコブヌカグモ
東近江市政所町石樽峠, 20241101, 1F.
47. *Oecobius navus* Blackwall 1859 チリグモ
守山市杉江町小津神社, 20240412, 2m.
48. *Asceua japonica* (Bösenberg & Strand 1906) ドウシグモ
長浜市早崎町竹生島, 20241028, 1F (山本佳範) ; 彦根市石寺町荒神山, 20240308, 1f.
49. *Coelotes albimontanus* Nishikawa 2009 ノウゴウクロヤチグモ (文献記録なし)
大津市坂本本町四谷川源流, 20230528, 1M (吉田真).
50. *Coelotes nagaraensis* Nishikawa 2009 ナガラヤチグモ
米原市上平寺伊吹神社, 20180326, 1M, 上平寺川戸谷, 20180326, 2F2M, 上野悉地院, 20180326, 2F.
51. *Coelotes yodoensis* Nishikawa 1977 ヨドヤチグモ
甲賀市信楽町牧岩倉川, 20241001, 1F.
52. *Antistea elegans* (Blackwall 1841) クサチハタケグモ
東近江市小脇町阿賀神社, 20241029, 1F (山本佳範).
53. *Hahnia nava* (Blackwall 1841) タロウヤマハタケグモ (文献記録なし)
長浜市中野町矢合神社, 20211008, 1F (石井清).
54. *Oxyopes licenti* Schenkel 1953 クリチャササグモ
愛荘町斧磨, 20240806, 1f.
55. *Trochosa ruricola* (De Geer 1778) アライトコモリグモ
長浜市余呉町中河内栃ノ木峠, 20240519, 1M ; 守山市立入町河原, 20240818, 1f.
56. *Xysticus hedinii* Schenkel 1936 クロボシカニグモ
草津市志那町志那神社, 20240627, 2M ; 守山市杉江町小津神社, 20240412, 1F2M ; 豊

- 郷町吉田, 20240503, 1M ; 甲良町尼子, 20240503, 1M ; 米原市天満天満宮, 20240929, 1M, 本庄町, 20241013, 1F.
57. *Clubiona diversa* O. P.-Cambridge 1862 ミチノクフクログモ
高島市今津町天増川, 20240813, 1F ; 日野町三十坪八千銚神社, 20240611, 1F, 20241006, 1M ; 愛荘町岩倉軽野神社, 20240806, 2F ; 米原市甲津原矢谷, 20240927, 1F1M, 柏原神明神社, 20240617, 6F.
58. *Labialithus labialis* (Paik 1991) ウスイロウラシマグモ
栗東市高野高野神社, 20240426, 1F.
59. *Phrurolithus nipponicus* Kishida 1914 ウラシマグモ (文献記録もれ)
長浜市木之本町金居原, 20210530, 1F (山本佳範), 余呉町中河内栃ノ木峠, 20240519, 1F ; 高島市朽木柏 (19990717, 1F, 野戸章・西川喜朗, くものいと 27).
60. *Cladothela unciinsignita* (Bösenberg & Strand 1906) ムナキワシグモ
栗東市高野高野神社, 20240426, 2M ; 豊郷町吉田, 20240503, 1M, 吉田愛知神社, 20240503, 1M.
61. *Drassyllus yaginumai* Kamura 1987 ヒメヨリメケムリグモ
彦根市小野町八幡神社, 20240604, 1F.
62. *Hitobia asiatica* (Bösenberg & Strand 1906) シノノメトンビグモ
甲賀市土山町北土山田村神社, 20240828, 1F.
63. *Philodromus aureolus* (Clerck 1758) コガネエビグモ
高島市朽木小入谷おにゅう峠, 20240813, 7f2m ; 草津市志那町志那神社, 20240627, 3F1M.
64. *Philodromus cespitum* (Walckenaer 1802) シロエビグモ
草津市志那町湖岸緑地, 20240627, 2F, 志那町志那神社, 20240627, 1f.
65. *Attulus albolineatus* (Kulczynski 1895) カワラコゲチャハエトリ
湖南市石部北石部河原, 20240906, 1F ; 東近江市妹町愛知川, 20030511, 1F2f.
66. *Attulus avocator* (O. P.-Cambridge 1885) ヒトリコゲチャハエトリ
草津市志那町志那神社, 20240627, 1F ; 栗東市高野高野神社, 20240426, 1F ; 甲良町尼子, 20240503, 3F1m, 20240823, 3F.
67. *Bristowia heterospinosa* Reimoser 1934 マツモトハエトリ
長浜市池奥町西池, 20210731, 1F ; 栗東市荒張, 20241015, 1F3fly ; 竜王町薬師鳴谷, 20241022, 1y ; 日野町三十坪八千銚神社, 20240611, 1f.
68. *Helicius chikunii* (Loguniv & Marusik 1999) チクニハエトリ
野洲市(NSMT-Ar. 11904, 20050603, 1M).
69. *Heliophanus lineiventris* Simon 1868 タカノハエトリ (文献記録なし)
守山市新庄町(NSMT-Ar. 11942, 20051006, 3F) ; 湖南市石部北石部河原, 20240906, 6f6m ; 東近江市妹町愛知川, 20030511, 10F.
70. *Heliophanus ussuricus* Kulczynski 1895 ウスリーハエトリ
守山市新庄町(NSMT-Ar. 11919, 20050801, 1F).
71. *Myrmarachne kuwagata* Yaginuma 1967 クワガタアリグモ
守山市水保町樹下神社, 20240818, 1F.

72. *Sibianor kochiensis* (Bohdanowicz & Proszynski 1987) ナカヒラハエトリ
東近江市蛭谷町, 20200922, 1f1M.
73. *Sibianor nigriculus* (Logunov & Wesolowska 1992) クロツヤハエトリ
守山市(NSMT-Ar. 11920, 20050801, 1F) ; 野洲市(NSMT-Ar. 11898, 20050603, 1F).
74. *Talavera ikedai* (Logunov & Kronestedt 2003) ヒメスジハエトリ
豊郷町吉田, 20240503, 1M.

上記 1~3 を整理した結果, 2024 年 12 月現在で滋賀県からは 49 科 512 種のクモを記録することが出来た.

調査の現状

2023 年までの文献をもとに各行政地域における報告種数をまとめたところ, 調査実施地域に偏りが見られることが分かった. 2024 年は県全域を視野に入れ, 幅広く調査できるよう心掛けた.

以下に, 行政区ごとの 2024 年 12 月現在の確認種数及び 2023 年における文献調査結果の種数 (括弧内の数値) を示す.

長浜市, 317 (224) ; 高島市, 233 (164) ; 大津市, 287 (287) ; 草津市, 150 (100) ; 守山市, 119 (19) ; 栗東市, 165 (14) ; 野洲市, 147 (20) ; 湖南市, 151 (1) ; 竜王町, 150 (2) ; 近江八幡市, 154 (13) ; 日野町, 182 (3) ; 甲賀市, 301 (168) ; 東近江市, 253 (118) ; 愛荘町, 173 (2) ; 豊郷町, 105 (0) ; 甲良町, 112 (0) ; 多賀町, 153 (25) ; 彦根市, 132 (2) ; 米原市, 235 (20).

謝辞

疑問種の解明に当たっては吉田真氏より該当する標本の提供など多大なるご協力を頂きました. また, 滋賀県で調査を行っている無脊椎動物部門の方々より多くの標本を提供していただきました. 皆様のご厚意に心よりお礼申し上げます.

参考文献

- 熊田憲一 2024. 滋賀県長浜市木之本町金居原のクモ. 蜘蛛, 57: 9-19.
- 国立科学博物館, 標本・資料統合データベース クモ目. https://db.kahaku.go.jp/webmuseum/search?cls=col_a3_10 (2024 年 12 月 20 日閲覧)
- 新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2024. CD 日本のクモ ver.2024. 自費刊行.
- 吉田真 1994. 滋賀県のクモ類. くものいと, 14: 14-25.
- 吉田真・熊田憲一 2023. 滋賀県クモ類リスト. Pp. 96-109. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編), 滋賀県生きもの総合調査・その他陸生無脊椎動物, 2023 (滋賀県). [この文書は滋賀県が公表しているもので, 県庁にて希望者が閲覧できる. 印刷物としては出版されていない. 筆者は調査を担当するにあたって部門部会長から PDF で提供を受けた.]

けいはんな記念公園におけるワクドツキジグモの記録

稲本雄太

はじめに

ワクドツキジグモ *Pasilobus hupingensis* Yin, Bao & Kim 2001 は、本州（関東以南）・四国・九州・南西諸島に分布する希少種である。1990年代まで観察・採集記録は非常に少なかったが、2000年以降に採集例が増加しており（新海 2007）、近畿では大阪府・滋賀県・奈良県で分布が確認されているが（新海・谷川 2006, 2009; 吉田 2007）、京都府からの記録は確認されていない（京都府 2015）。

今回、京都府南部の精華町に位置するけいはんな記念公園で本種を採集したため、ここに報告する。

生息環境と採集時の状況

2025年2月14日、けいはんな記念公園内の里山を歩いていると、同行者が日当たりの良い林縁部に咲くスミレに気づき、種を確認するため私も立ち止まり林床に目をやった。すると、地上から約3cmのササに糸を垂らした異形のクモが目にとまった。

素人ながらもこれは良いクモであると確信し、持ち帰り調べてみると、ワクドツキジグモ（雌の未成熟個体、体長4.9mm）であることが明らかになった（図1）。確認例の少ない希少種であったため、加村隆英博士に連絡を差し上げたところ、ワクドツキジグモで間違いなく、京都府からは未記録であるのご教示頂いた。生息環境は全体的に乾燥気味の二次林ではあるものの、大きな池が隣接しており（図2）、谷川（2012）にあるように、糸を垂らしていた行動は湿度との関連が示唆される。なお、採集した個体は100% エタノールに液浸し、きょうと生物多様性センターに寄贈した。



図1（左）、ワクドツキジグモ；図2（右）、ワクドツキジグモの採集場所。

謝辞

今回の報告に際し、加村隆英博士（追手門学院大学名誉教授）には関西クモ研究会会誌『くものいと』への投稿をお勧め頂き、同定や分布記録などの情報についてご教示頂いた。また、同行していた江木淳人氏の気づきが今回の貴重な記録につながった。ここに感謝申し上げます。

参考文献

- 京都府 2015. 京都府自然環境目録 2015. <<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/mokuroku/index.html>> (最終閲覧日：2025年2月14)
- 新海明 2007. ワクドツキジグモの採集記録の一覧. *Kishidaia*, 92: 53–54.
- 新海明・谷川明男 2006. 採集情報. *遊絲*, 19: 15–17.
- 新海明・谷川明男 2009. 採集情報. *遊絲*, 24: 7–8.
- 谷川明男 2012. ワクドツキジグモは湿度が高いときに造網する. *Kishidaia*, 101: 33–35.
- 吉田真 2007. 龍谷の森のワクドツキジグモ (*Pasilobus hupingensis*). *くものいと*, 40: 26–31.

兵庫県における外来種ハルカガケジグモの記録

本庄四郎

但馬自然史研究所

はじめに

ウシオグモ科のハルカガケジグモ *Badumna longinqua* (L.Koch 1867) はオーストラリア東部を原産とする外来種である。新海 (2017) の「日本のクモ (増補改訂版)」によれば、港湾施設および周辺の公園などに多く生息し、ボロ網を張り、本州 (千葉県以南の太平洋側各県) に分布するとある。その後、茨城、埼玉、東京、静岡、愛知、岡山、愛媛などの各県で発見されている (新海ら 2024)。

これまで兵庫県での記録が未発表だったので、最近の記録も合わせて報告する。

確認記録

確認年月日、確認場所及び確認時の状況を記す。

(1) 2015年9月14日、赤穂市福浦

兵庫県下のクモの分布調査のために訪れた赤穂市福浦の塩釜神社入り口の海に面した電柱にボロ網を見つけ、潜んでいた雌亜成体2個体を採集した。

(2) 2022年11月20日、赤穂市福浦

マリーナ周辺のいたるところにボロ網がみつきり、束になったロープの中などから複数の個体を確認、撮影した。

(3) 2024年5月23日、豊岡市竹野町竹野浜新港

夜間、ウミホテル観察会の下見に訪れた防波堤のガードレールにボロ網を発見。活動中のハルカガケジグモを確認して撮影した。

(4) 2024年5月24日、豊岡市竹野町竹野湾港

竹野川左岸の河口にあるマリーナは通称湾港と呼ばれるが、いたるところにボロ網が見つかった。

(5) 2024年6月4日、美方郡新温泉町浜坂漁港

山本一幸氏による調査で、漁港のいたるところに生息していることが判明した。

考察

兵庫県内での記録は今のところ3か所であるが、今後各地のマリーナ等で見つかる可能性が高い。神戸市や姫路市、淡路島では同じく外来種のウシオグモ科のクロガケジグモ *Badumna insignis* (L.Koch 1872) が見つまっているが、網だけでの判別は困難なので、同様のボロ網があれば採集して確認する必要がある。

これまで知られたハルカガケジグモの生息地は太平洋側ばかりであったが、今回初めて日本海側にも生息することが確認された。

移入ルートは釣り愛好家の自家用車などの移動に伴うものなのか、水産業者の流通

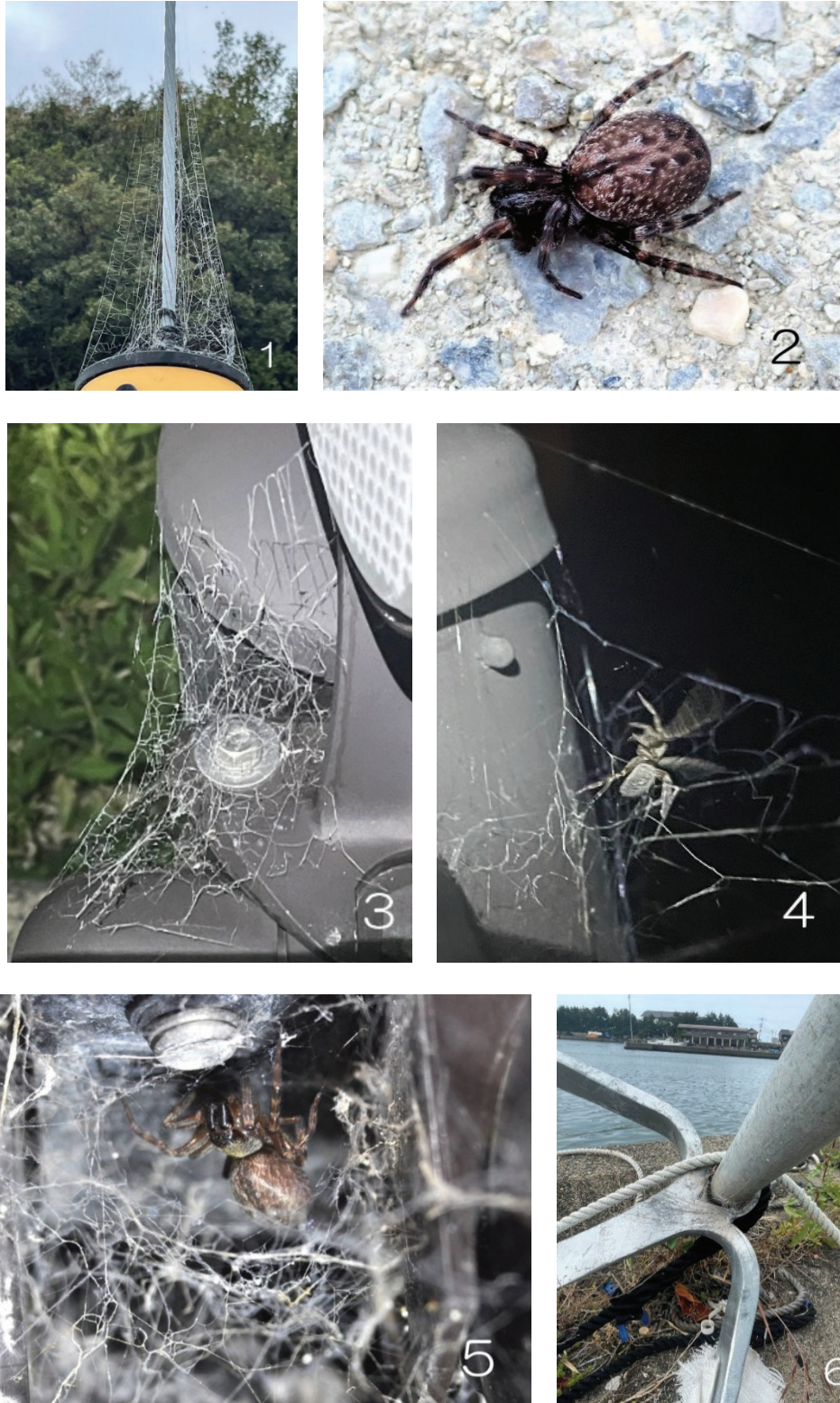


図 1. 赤穂市福浦のマリーナに張られたハルカガケジグモの網 (2022.11.20). 図 2. 赤穂市福浦のハルカガケジグモ (2022.11.20). 図 3. 豊岡市竹野町のガードレールに張られたハルカガケジグモの網 (2024.5.23). 図 4. 竹野浜新港のガードレールで夜間活動中のハルカガケジグモ (2024.5.23). 図 5. ボロ網から姿を見せたハルカガケジグモ (2024.5.23). 図 6. 豊岡市竹野町竹野湾港のイカリに張られたボロ網 (2024.5.24).



図 7. 豊岡市竹野町竹野湾港のハルカガケジグモの網 (2024.5.24). 図 8. 新温泉町浜坂漁港で確認されたハルカガケジグモ (2024.6.4 山本一幸氏撮影).



図 9. 兵庫県でハルカガケジグモの生息が確認された地点.

移動に伴うものなのか、観光客による持ち込みなのか、今後、各地の分布の解明状況で何かがわかるかもしれない。

謝辞

本稿をとりまとめるにあたり、情報提供をいただいた新温泉町久斗山公民館長山本一幸氏にお礼を申し上げます。

文献

新海明・谷川明男・安藤昭久・池田博明・桑田隆夫 2024. CD 日本のクモ ver. 2024. 自費刊行.

新海栄一 2017. ネイチャーガイド・日本のクモ 増補改訂版. 文一総合出版, 408 pp.

兵庫県におけるナカムラオニグモの記録

本庄四郎

但馬自然史研究所

はじめに

ナカムラオニグモ *Larinioides cornutus* (Clerck 1757) は草原や水辺に生息する北方系のクモとしてよく知られている。その分布の南限は、植村 (1940) によって「ナカムラオニグモ線」と名付けられた。これは、年平均気温 15°C、平均最低気温 -3.5°C のハマオモト線や、本州南岸線とほぼ一致する。

新海栄一 (2017) の「日本のクモ (増補改訂版)」によれば、「本種の国内分布は北海道、本州、四国の平地から山地まで。草原、水田の周辺、河原、林道などの草間に垂直の正常円網を張り、網の一端の葉や穂先を丸めて袋状の住居を作り、地域によっては人家、橋の欄干、旅館、公共施設など建造物の周囲に生息。福井県以北の日本海側各県および長野県では普通種」とある。

筆者が執筆した兵庫県レッドデータブック (2017) クモ類の中では、ナカムラオニグモを「要調査種」として取り上げた。そのなかで数か所の生息地を図示したものの詳細については未発表であった。また、新海明ら (2024) による「CD 日本のクモ Ver. 2024」のナカムラオニグモの国内分布図において兵庫県は空白となっている。

そこで今回、手持ちのこれまでの記録と知見をまとめたので報告する。

確認記録

確認年月日、確認場所及び確認時の状況を記す。

(1) 2013年11月16日、豊岡市但東町小坂 (こざこ)

とよおか子どもの野生復帰大作戦の野外活動中に、川崎潤也君がガードレールに造網中のクモを発見し、筆者がナカムラオニグモと確認。未成熟個体であったので採集せず撮影にとどめた。

(2) 2014年2月2日、豊岡市但東町中山 資母体育館外壁

とよおか子どもの野生復帰大作戦の野外活動中に、体育館の壁面に越冬中のクモ (雌成体1個体) を発見、撮影ののちアルコール固定した。標本は筆者が保管。

(3) 2015年6月13日、豊岡市城崎町飯谷

山陰海岸ジオパークエリアのクモ類を調査中の山本一幸氏が楽々浦湾南岸に面した圃場の防獣電気柵に造網していた個体を発見。撮影し、雌成体1個体及び未成熟の1個体を採集。標本は山本氏が保管。

(4) 2017年5月14日、豊岡市但東町西谷

とよおか子どもの野生復帰大作戦の生き物コース活動で、移動中に田植え前の水田の防獣電気柵で造網中の個体を確認し、撮影した。

(5) 2020年8月23日, 神崎郡神崎町川上 砥峰高原

とのみね自然交流館前の池の周りのマツカサススキに住居を設けていたのを発見し, 撮影した. 採集はしていない.

(6) 2022年10月26日, 豊岡市出石町宮内

田んぼの生き物調査で出石町宮内の有機農家の圃場を調査中に, 水路わきの農道に生えているクルミに住居を設け, 網を張った個体を確認した.

(7) 2023年6月18日, 豊岡市竹野町竹野

但馬自然史研究所主催の植物観察会で農道を歩いているときに, 防獣電気柵の杭に住居を設け, 造網していた個体を発見, 撮影した.

(8) 2024年5月22日, 豊岡市竹野町和田

夕方, 筆者が犬との散歩中に, JR 山陰本線の和田踏切の建造物に造網していた個体を発見, 撮影した.

(9) 2024年5月24日, 豊岡市木内 (きなし)

農業用水路にかかる橋のガードに住居を設けている雌雄成体と多数の幼体を発見, 撮影した.

(10) 2024年7月23日, 豊岡市木内 (きなし)

農業用水路にかかる橋のガード雄成体を撮影した.

(11) 2024年7月27日, 豊岡市竹野町和田

水田の防獣電気柵の電柵線につくられた住居に出入りする複数の幼体と成体雌を確認した.

(12) 2024年9月14日, 美方郡新温泉町久斗山

久斗山地区公民館主催の夜間自然観察会で網を張っている個体を公民館長の山本一幸氏が確認, 撮影して SNS で公開した.

考察

兵庫県におけるナカムラオニグモの記録は, 田中 (2001) が 1968 年の丹波市氷上町の採集記録を発掘して以来しばらく途絶えていたが, 2013 年以降豊岡市各地で記録され, 2020 年には神崎郡砥峰高原の湿地でも見つかった.

なお, 2017 年の兵庫県レッドデータブック中, 研究者の私信による情報で西宮市を分布図に加えたが, その後正式な発表が確認できていないので今回は割愛した.

豊岡市では 2024 年までに円山川流域の水田地帯のほか, さらに西の竹野川流域の水田地帯でも見つかった. 2024 年には兵庫県北西部の新温泉町でも発見されたことから分布域の西部への広がりが進みつつあると思われる. ナカムラオニグモの生息場所が主として水田や水辺であることと, 付近の建造物の壁面, ガードレール, 防獣電気柵等人工環境をうまく利用していることから, 今後の発見の目安になるものと思われる.

竹野町でのナカムラオニグモの生息場所は主として防獣電気柵であったが, 収穫の終わった 10 月半ば以降は冬季の降雪に備えて支柱ごと圃場から撤去される. 人工的

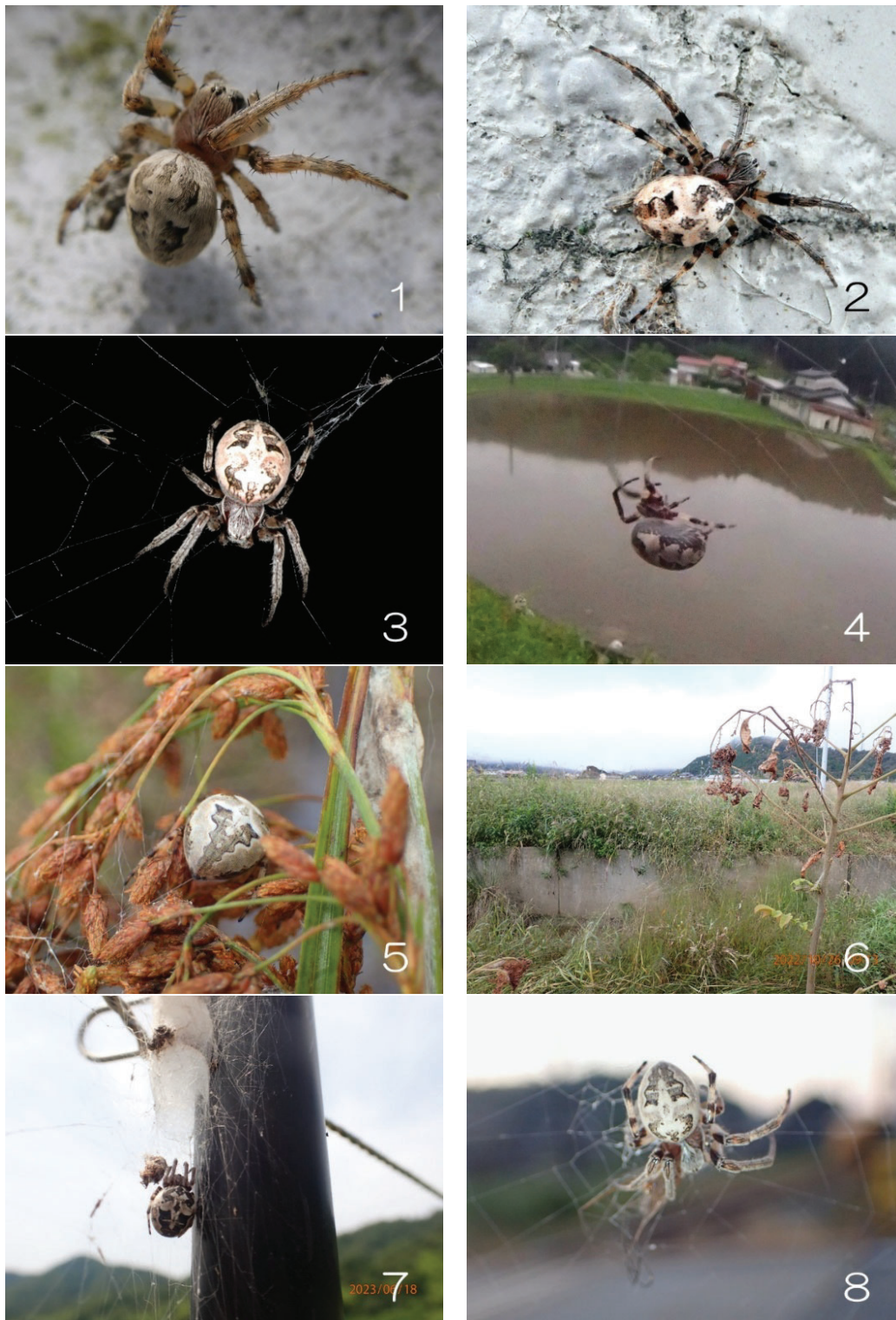


図 1. 但東町小坂のガードレールにいた未成熟個体 (2013.11.16 小田垣昌英氏撮影). 図 2. 但東町資母体育館壁面の成体 (2014.2.2 本庄撮影). 図 3. 城崎町飯谷の個体 (2015.6.14 山本一幸氏撮影). 図 4. 但東町西谷の個体 (2017.5.14 本庄撮影). 図 5. 砥峰高原のマツカサススキに潜む個体 (2020.8.23 本庄撮影). 図 6. 出石町宮内のナカムラオニグモ生息環境 (2022.10.26 本庄撮影). 図 7. 豊岡市竹野町竹野の個体 (2023.6.18 本庄撮影). 図 8. 豊岡市竹野町和田 JR 山陰本線踏切の個体 (2024.5.22 本庄撮影).

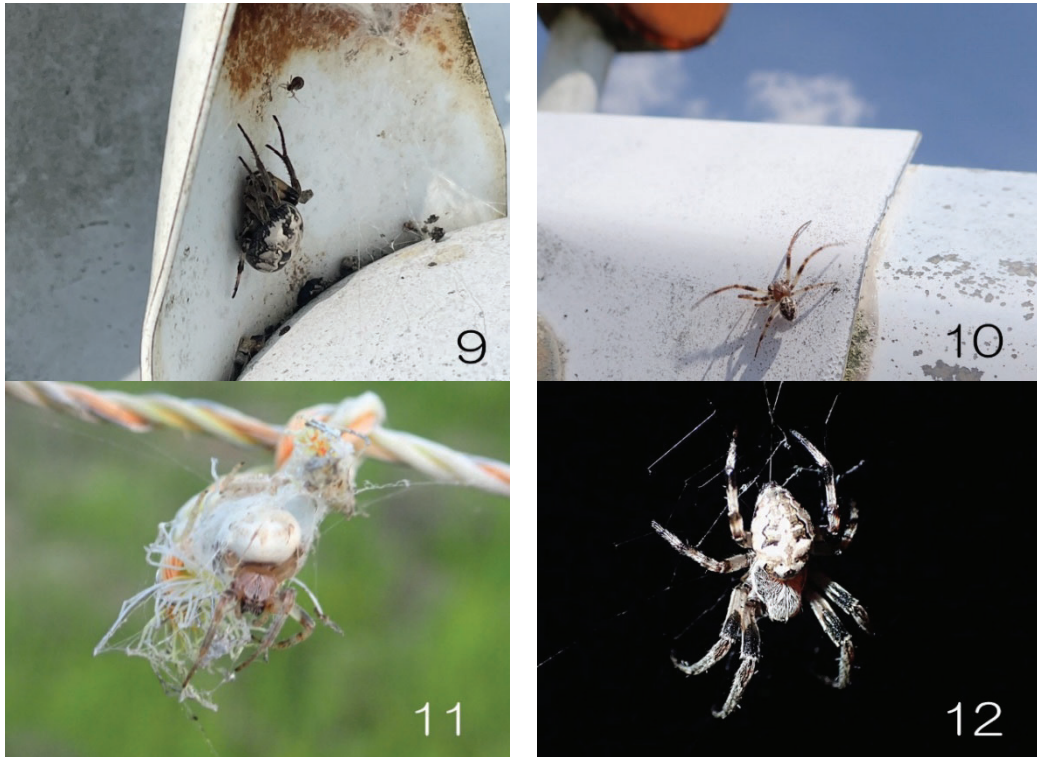


図 9. 豊岡市木内の水路にかかる橋のガードの雌個体 (2024.5.24 本庄撮影). 図 10. 豊岡市木内の水路にかかる橋のガードの雄個体 (2024.7.23 本庄撮影). 図 11. 豊岡市竹野町和田の防獣電柵線上に営巣する雌成体 (2024.7.27 本庄撮影). 図 12. 美方郡新温泉町久斗山の雌成体 (2024.9.14 山本一幸氏撮影).



図 13. 兵庫県におけるナカムラオニグモの確認地点. 筆者が確認した記録を黒丸で, 文献による記録を白丸で示す.

に生まれた都合のよい足場であったが、足場を失ったナカムラオニグモがその後、どのように移動分散し定着していくのか興味深い。

謝辞

本稿をとりまとめるにあたり情報提供や助言をいただいた新温泉町久斗山公民館長山本一幸氏，出石での観察のきっかけや助言をいただいたた雀部真理氏，写真を提供いただいた豊岡市日高町の小田垣昌英氏にお礼を申し上げます。

文献

植村利夫 1940. ナカムラオニグモの分布線. *Acta Arachnologica*, 5: 113–118.

新海 明・谷川明男・安藤昭久・池田博明・桑田隆夫 2024. CD 日本のクモ ver. 2024. 自費刊行.

新海栄一 2017. ネイチャーガイド・日本のクモ 増補改訂版. 文一総合出版, 408 pp.

田中穂積 2001. 兵庫県（数ヶ所）の採集記録. *くものいと*, 26: 26–34.

兵庫県 2017. 兵庫県の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）, 102 pp.

八木沼健夫 1986. 原色日本クモ類図鑑. 保育社, xxiv+305 pp.

喜界島，沖永良部島，栗国島，渡名喜島，久米島 で採集されたクモ類

加村隆英

Spiders collected from Kikaijima Is., Okinoerabujima Is., Agunijima Is., Tonakijima Is. and
Kumejima Is., Nansei Islands, Japan

Takahide Kamura

筆者の手元にある南西諸島の喜界島，沖永良部島，栗国島，渡名喜島，久米島で採集されたクモ類の同定結果を示す．ワシグモ科及びウラシマグモ科のうち，すでに筆者が公表した記録は省いている．採集及び同定はすべて筆者による．科の配列は谷川（2025）に従った．新海ら（2024）のデータに照らして，それぞれの島における新記録と見なされる種には，アスタリスク（*）を付した．

【喜界島】

ヒメグモ科

Argyrodes bonadea (Karsch 1881) シロカネイソウロウグモ 9♀5♂，塩道（平家森），6.VIII.2004; 1♂，荒木，5.VIII.2004.

**Argyrodes flavescens* O. Pickard-Cambridge 1880 ミナミノアカイソウロウグモ 1♂，塩道（平家森），6.VIII.2004.

**Argyrodes kumadai* Chida & Tanikawa 1999 チリイソウロウグモ 1♂，志戸桶，6.VIII.2004.

**Parasteatoda ryukyu* (Yoshida 2000) リュウキュウヒメグモ 4♀，西目（鳥の山公園），6.VIII.2004; 1♀，浦原，4.VIII.2004.

コガネグモ科

**Cyclosa confusa* Bösenberg & Strand 1906 ミナミノシマゴミグモ 1♀1♂，塩道（平家森），6.VIII.2004; 1♀，西目（鳥の山公園），6.VIII.2004; 1♀，浦原，4.VIII.2004.

**Cyclosa mulmeinensis* (Thorell 1887) トゲゴミグモ 1♀，小野津（トンビ崎），5.VIII.2004; 1♀，小野津（ムチャ加那公園），7.VIII.2004; 1♀，百之台，7.VIII.2004; 2♀1♂，浦原，4.VIII.2004.

Cyrtophora ikomosanensis (Bösenberg & Strand 1906) スズミグモ 1♀，塩道（平家森），6.VIII.2004.

Nephila pilipes (Fabricius 1793) オオジョロウグモ 成熟個体多数，島内各地で目撃，4-9.VIII.2004.

Thelacantha brevispina (Doleschall 1857) チブサトゲグモ 2♀，小野津（ムチャ加那公

園), 7.VIII.2004; 3♀, 荒木, 5.VIII.2004; 2♀, 浦原, 4.VIII.2004.

アシナガグモ科

**Leucauge blanda* (L. Koch 1878) チュウガタシロカネグモ 1♀, 塩道 (平家森), 6.VIII.2004; 2♀, 西目 (鳥の山公園), 6.VIII.2004.

ウズグモ科

**Octonoba grandiconcava* Yoshida 1981 アマミウズグモ 1♀, 西目 (鳥の山公園), 6.VIII.2004.

コモリグモ科

**Pardosa oriens* (Chamberlin 1924) ヒガシコモリグモ 3♀, 塩道 (平家森), 6.VIII.2004; 1♀, 西目 (鳥の山公園), 6.VIII.2004; 2♀1♂, 荒木, 16.III.2005; 2♀, 浦原, 5.VIII.2004; 2♀, 浦原, 15.III.2005.

**Trochosa aquatica* Tanaka 1985 ナガズキンコモリグモ 1♀, 小野津 (トンビ崎), 14.III.2005; 1♀1♂, 小野津 (雁股の泉), 7.VIII.2004; 2♀1♂, 塩道 (平家森), 6.VIII.2004; 3♀2♂, 中熊, 8.VIII.2004; 1♀1♂, 西目 (鳥の山公園), 6.VIII.2004; 1♀, 荒木, 5.VIII.2004.

**Wadicosa okinawensis* (Tanaka 1985) リュウキュウコモリグモ 1♀, 西目 (鳥の山公園), 6.VIII.2004; 2♀, 荒木, 15–16.III.2005.

ワシグモ科

**Zelotes asiaticus* (Bösenberg & Strand 1906) クロチャケムリグモ 1♀, 小野津 (トンビ崎), 14.III.2005 (幼体を採集, 18.VII.2005 成熟).

ツチフクログモ科

**Prochora praticola* (Bösenberg & Strand 1906) イタチグモ 2♀, 塩道 (平家森), 6.VIII.2004; 1♀, 西目 (鳥の山公園), 6.VIII.2004.

ハエトリグモ科

**Hasarius adansoni* (Audouin 1826) アダンソンハエトリ 1♀, 塩道 (平家森), 6.VIII.2004; 1♀, (車中), 5.VIII.2004.

**Plexippus paykulli* (Audouin 1826) チャスジハエトリ 1♀, 湾, 5.VIII.2004.

**Siler ruber* Baba, Yamasaki & Tanikawa 2019 アカオビハエトリ 1♀, 百之台, 5.VIII.2004.

**Synagelides annae* Bohdanowitz 1979 オオクマアメイロハエトリ 1♀, 小野津 (雁股の泉), 7.VIII.2004.

【沖永良部島】

ヒメグモ科

Coscinida japonica Yoshida 1994 トガリクサチヒメグモ 1♀, 和泊町根折 (越山付近), 12.III.2003.

コガネグモ科

Cyclosa confusa Bösenberg & Strand 1906 ミナミノシマゴミグモ 1♀, 和泊町内城,

13.III.2003.

サラグモ科

**Nematogmus sanguinolentus* (Walckenaer 1842) チビアカサラグモ 2♀1♂, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 11.III.2003; 1♂, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 13.III.2003.

タナグモ科

Coelotes amamiensis Shimojana 1989 アマミヤチグモ 1♀, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 11.III.2003.

コモリグモ科

Pardosa laevitarsis Tanaka & Suwa 1986 タテスジハリゲコモリグモ 2♀1♂, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 11.III.2003.

Pardosa oriens (Chamberlin 1924) ヒガシコモリグモ 4♀2♂, 和泊町内城, 13.III.2003; 2♂, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 13.III.2003.

Pardosa takahashii (S. Saito 1936) スナハラコモリグモ 1♀, 和泊町瀬名～永嶺 (内喜名浜), 12.III.2003.

Trochosa aquatica Tanaka 1985 ナガズキンコモリグモ 1♂, 和泊町国頭 (ビシの浜), 13.III.2003.

カニグモ科

Xysticus ryukyuensis Ono 2002 リュウキュウカニグモ 2♂, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 11.III.2003; 2♂, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 13.III.2003.

ワシグモ科

**Zelotes asiaticus* (Bösenberg & Strand 1906) クロチャケムリグモ 1♀, 知名町瀬利覚 (大山植物公園付近), 11.III.2003.

【粟国島】採集場所はすべて「浜 (ウーグ砂浜)」.

タマゴグモ科

**Ischnothyreus velox* Jackson 1908 アジアヨロイダニグモ 2♀, 14.II.1999. (図 1A–B)

**Xestaspis parmata* Thorell 1890 ネットアイダニグモ 1♂, 14.II.1999. (図 1C–D)

コガネグモ科

Cyclosa confusa Bösenberg & Strand 1906 ミナミノシマゴミグモ 2♀, 14.II.1999.

Cyclosa mulmeinensis (Thorell 1887) トゲゴミグモ 8♀4♂, 14.II.1999.

Thelacantha brevispina (Doleschall 1857) チブサトゲグモ 1♀, 14.II.1999.

ハタケグモ科

**Hahniantha thorntoni* Blignoli 1982 サツマハタケグモ 1♀, 13.II.1999; 2♀, 15.II.1999.

シボグモ科

**Anahita fauna* Karsch 1879 シボグモ 1♂, 14.II.1999.

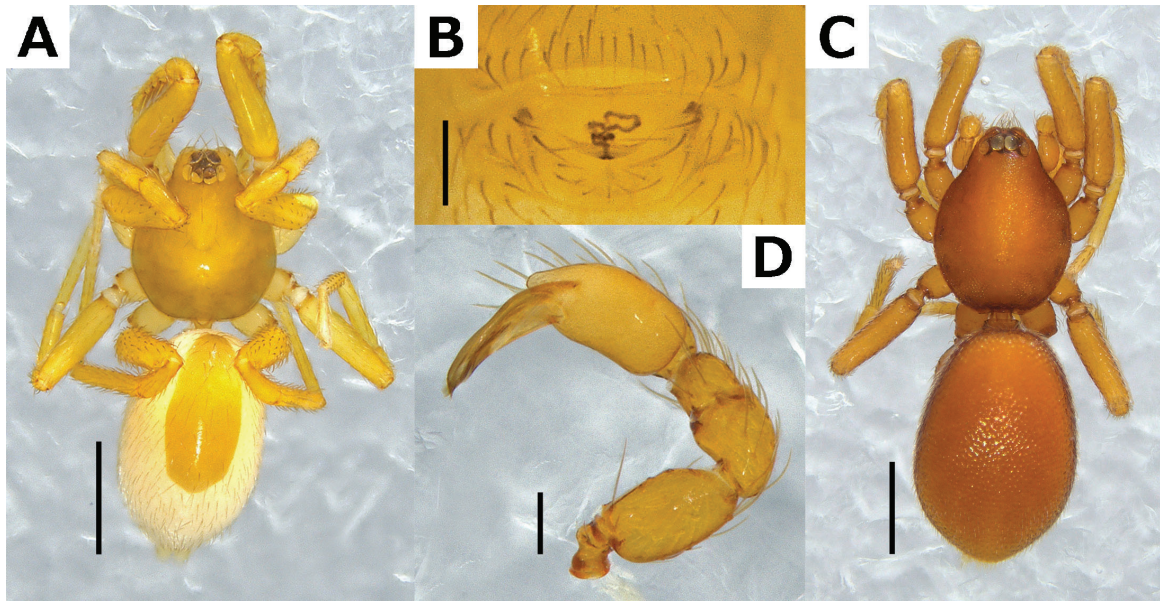


図 1. 粟国島で採集されたタマゴグモ科の 2 種. A. *Ischnothyreus velox* Jackson 1908 アジアヨロイダニグモ, ♀; B. 同, 外雌器, 腹面; C. *Xestaspis parmata* Thorell 1890 ネットタイダニグモ, ♂; D. 同, 左触肢, 後側面. スケール = 0.5 mm (A, C); 0.1 mm (B, D).

【渡名喜島】

コガネグモ科

**Cyclosa mulmeinensis* (Thorell 1887) トゲゴミグモ 1♀, 20.III.2006.

**Neoscona theisi* (Walckenaer 1842) ホシスジオニグモ 1♀, 20.III.2006.

**Thelacantha brevispina* (Doleschall 1857) チブサトゲグモ 1♂, 19.III.2006; 1♀, 20.III.2006.

アシナガグモ科

**Leucauge blanda* (L. Koch 1878) チュウガタシロカネグモ 1♂, 20.III.2006.

ハタケグモ科

**Hahnia thorntoni* Blignoli 1982 サツマハタケグモ 1♀, 20.III.2006.

コモリグモ科

**Pardosa oriens* (Chamberlin 1924) ヒガシコモリグモ, 1♀, 21.III.2006.

**Pardosa takahashii* (S. Saito 1936) スナハラコモリグモ 2♀, 20.III.2006.

**Trochosa aquatica* Tanaka 1985 ナガズキンコモリグモ 2♂, 20.III.2006.

カニグモ科

**Ebrechtella tricuspdata* (Fabricius 1775) ハナグモ 1♀, 21.III.2006.

フクログモ科

**Clubiona corrugata* Bösenberg & Strand 1906 コフクログモ 2♀, 20.III.2006.

ワシグモ科

**Zelotes asiaticus* (Bösenberg & Strand 1906) クロチャケムリグモ 1♀, 21.III.2006.

ハエトリグモ科

**Hasarius adansoni* (Audouin 1826) アダンソンハエトリ 2♀1♂, 21.III.2006.

【久米島（奥武島を含む）】

コガネグモ科

Neoscona subpullata (Bösenberg & Strand 1906) ヘリジロオニグモ 1♂, 儀間（アーラ浜）, 17.II.1999.

アシナガグモ科

**Glenognatha dentata* (Zhu & Wen 1978) ミナミヨツボシヒメアシナガグモ 1♂, 奥武島, 18.II.1999.

ハタケグモ科

Hahnia thorntoni Blignoli 1982 サツマハタケグモ 1♀, 山城, 17.II.1999.

ハエトリグモ科

**Bristowia heterospinosa* Reimoser 1934 マツモトハエトリ 1♂, 島尻, 17.II.1999.

謝辞

タマゴグモ科の同定については、鈴木佑弥氏（徳島県立博物館）のご助言を得た。厚くお礼申し上げます。

文献

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2024. CD 日本のクモ ver.2024. 自費刊行.

谷川明男 2025. 日本産クモ類 ver. 2025 R1. <https://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf>

中部蜘蛛懇談会・関西クモ研究会 合同採集会の記録

2024 年度は、中部蜘蛛懇談会と関西クモ研究会の共催で採集会を実施することができました。開催場所については、中部方面と関西方面の両方から同じくらいの距離で、鉄道の駅の近くに良い採集場所がある所を探さなければならず、その選定には少しばかり手間取りましたが、JR 関西本線の加太（かぶと）駅周辺（三重県亀山市）に決まりました。当日は天候にも恵まれ、29名の参加がありました。

実施日：2024 年 6 月 1 日

開催地：三重県亀山市加太市場～加太向井（JR 西日本 関西本線 加太駅周辺）

参加者：安達郁子，荒川真，伊藤孝子，伊藤博，大久保（妻），大久保（夫），岡田純二，貝發憲治，加藤修朗，加村隆英，川合あき，熊田憲一，塩崎哲哉，高橋（親），高橋（子），寺見光葉，寺見（父），寺見（母），中村香代子，萩野典子，原口岳，本多美樹，松本吏樹郎，三宅麻衣子，三宅哲郎，三宅玖真，三宅楊，柳川莉子，山田哲也。（29名，50音順，敬称略）（数名の参加者については，お名前を正確に把握できていません。お詫びいたします。）



採集会の参加者（加太駅前にて）（撮影：加藤修朗氏）

参加者によって採集された標本は，貝發憲治，加藤修朗，熊田憲一，塩崎哲哉，萩野典子の各氏（50音順）及び加村隆英が手分けして同定し，全体のとりまとめは加藤

修朗氏にお引き受けいただきました。

この採集会の立案，準備にご協力くださった皆様，採集会に参加し，標本をご提供くださった皆様，同定作業及びデータの取りまとめにご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

今回の採集会では，26科143種が確認できました。その一覧は下のとおりです。同定者ごとに個体数と雌雄及び成体・幼体の別を示しました（記号の意味は次のとおり：F, 雌の成体；f, 雌の幼体；M, 雄の成体；m, 雄の幼体；y, 雌雄が判別できない幼体；E, 卵囊）。

（文責：加村隆英）

Oonopidae タマゴグモ科

Gamasomorpha kusumii Komatsu 1963 クスミダニグモ 加村 2F

Theridiidae ヒメグモ科

Anelosimus crassipes (Bösenberg & Strand 1906) アシブトヒメグモ 加藤 1F, 熊田 2F

Anelosimus iwawakiensis Yoshida 1986 イワワキアシブトヒメグモ 加村 1M

Argyrodes bonadea (Karsch 1881) シロカネイソウロウグモ 加村 2F1M, 熊田 1F, 塩崎 1F1M1m

Argyrodes kumadai Chida & Tanikawa 1999 チリイソウロウグモ 貝發 1y

Ariamnes cylindrogaster Simon 1889 オナガグモ 熊田 1F

Chikunia albipes (S.Saito 1935) ギボシヒメグモ 貝發 1F

Coscinida japonica Yoshida 1994 トガリクサチヒメグモ 萩野 1F2y

Dipoena punctisparsa Yaginuma 1967 シモフリミジングモ 貝發 1F

Enoplognatha abrupta (Karsch 1879) カレハヒメグモ 加村 1F

Episinus nubilus Yaginuma 1960 ムラクモヒシガタグモ 塩崎 1y, 萩野 1y

Euryopis nigra Yoshida 2000 クロヒラタヒメグモ 熊田 2M, 塩崎 1F

Moneta caudifera (Dönitz & Strand 1906) ハラナガヒシガタグモ 貝發 1F, 加村 1M

Neospintharus fur (Bösenberg & Strand 1906) フタオイソウロウグモ 加藤 1M, 熊田 1F, 萩野 1M

Nihonhimea japonica (Bösenberg & Strand 1906) ニホンヒメグモ 加藤 1m

Paidiscura subpallens (Bösenberg & Strand 1906) ハイイロヒメグモ 貝發 4F1M1y, 加藤 1M, 熊田 1M, 萩野 9F2y

Parasteatoda angulithorax (Bösenberg & Strand 1906) ツリガネヒメグモ 加村 1F, 塩崎 1F

Parasteatoda culicivora (Bösenberg & Strand 1906) カグヤヒメグモ 加村 1F, 塩崎 1F1M

Parasteatoda kompirensis (Bösenberg & Strand 1906) コンピラヒメグモ 貝發 7y1m, 熊田 1f, 萩野 1y

Parasteatoda tabulata (Levi 1980) オオツリガネヒメグモ 熊田 3F1M

Parasteatoda tepidariorum (C. L. Koch 1841) オオヒメグモ 貝發 1y, 熊田 1F3M, 萩野 3y

Phoroncidia pilula (Karsch 1879) ツクネグモ 貝發 1F

Phycosoma amamiense (Yoshida 1985) アマミミジングモ 熊田 1F1M

Phycosoma flavomarginatum (Bösenberg & Strand 1906) キベリミジングモ 貝發 1F

Phycosoma mustelinum (Simon 1889) カニミジングモ 貝發 1F, 加藤 1F, 熊田 2F1f

Platnickina sterninotata (Bösenberg & Strand 1906) ムナボシヒメグモ 加藤 1F, 熊田 4F, 塩崎 1M, 萩野 1F1E

Stemmops nipponicus Yaginuma 1969 スネグロオチバヒメグモ 加村 2F2M, 熊田 1F, 萩野 2F

Takayus chikunii (Yaginuma 1960) バラギヒメグモ 加藤 1M, 加村 1F, 熊田 8F, 萩野 1F

Yaginumena castrata (Bösenberg & Strand 1906) ボカシミジングモ 加村 1F

Yaginumena mutilata (Bösenberg & Strand 1906) コアカクロミジングモ 貝發 2F2M

Yunohamella subadulta (Bösenberg & Strand 1906) コケヒメグモ 貝發 1F1M, 熊田 1F, 塩崎 1F

Mysmenidae コツブグモ科

Microdipoena ogatai (Ono 2007) ヤマトコツブグモ 塩崎 2F

Microdipoena pseudojobi (Lin & Li 2008) ナンブコツブグモ 塩崎 2F

Araneidae コガネグモ科

Araneus ejusmodi Bösenberg & Strand 1906 ヌサオニグモ 貝發 1F1M, 加藤 3M1f1m

Araneus ogatai Tanikawa 2001 オガタオニグモ 加村 1F

Araneus semilunaris (Karsch 1879) マルヅメオニグモ 加村 1f

Araneus tsurusakii Tanikawa 2001 カラオニグモ 貝發 1F1M

Araniella yaginumai Tanikawa 1995 ムツボシオニグモ 加村 1F

Argiope boesenbergi Levi 1983 チュウガタコガネグモ 加藤 1F, 熊田 1F

Argiope bruennichi (Scopoli 1772) ナガコガネグモ 加藤 1y, 加村 1y

Argiope minuta Karsch 1879 コガタコガネグモ 熊田 1y

Chorizopes nipponicus Yaginuma 1963 ヤマトカナエグモ 貝發 1F, 加藤 1F, 熊田 1M

Cyclosa argenteoalba Bösenberg & Strand 1906 ギンメッキゴミグモ 貝發 1F, 熊田 1F, 塩崎 2F, 萩野 2F

Cyclosa laticauda Bösenberg & Strand 1906 キジロゴミグモ 熊田 1F

Cyclosa octotuberculata Karsch 1879 ゴミグモ 貝發 1F, 加藤 1F, 加村 1M, 熊田 1M, 塩崎 1F, 萩野 20F

Cyclosa sedeculata Karsch 1879 ヨツデゴミグモ 熊田 4F, 塩崎 2F, 萩野 2F2E

- Larinioides cornutus* (Clerck 1757) ナカムラオニグモ 加藤 2F, 加村 1y, 塩崎 1m
Neoscona mellottei (Simon 1895) ワキグロサツマノミダマシ 熊田 4y
Neoscona nautica (L. Koch 1875) イエオニグモ 熊田 1f
Neoscona scylloides (Bösenberg & Strand 1906) サツマノミダマシ 貝發 4y, 熊田 3y, 萩野 3y
Ordgarius sexspinosus (Thorell 1894) ムツトゲイセキグモ 貝發 1y
Trichonephila clavata (L. Koch 1878) ジョロウグモ 熊田 1y, 萩野 3y
- Mimetidae センショウグモ科**
- Ero japonica* Bösenberg & Strand 1906 センショウグモ 熊田 1F
- Tetragnathidae アシナガグモ科**
- Leucauge blanda* (L. Koch 1878) チュウガタシロカネグモ 貝發 1y, 加藤 2F1m, 熊田 3F1f, 萩野 1F
Leucauge celebesiana (Walckenaer 1842) オオシロカネグモ 貝發 1f, 加藤 1F, 熊田 1F, 塩崎 1F
Leucauge subblanda Bösenberg & Strand 1906 コシロカネグモ 貝發 1f, 萩野 1m
Tetragnatha keyserlingi Simon 1890 ヤサガタアシナガグモ 加藤 1F3M, 加村 1F, 熊田 1F3M2f, 塩崎 1F
Tetragnatha makiharai Okuma 1977 リュウキュウアシナガグモ 熊田 1F
Tetragnatha praedonia L. Koch 1878 アシナガグモ 加藤 1F2f, 加村 1M, 熊田 1F1M1m1y
Tetragnatha squamata Karsch 1879 ウロコアシナガグモ 加藤 1f, 萩野 1M
- Linyphiidae サラグモ科**
- Ainerigone saitoi* (Ono 1991) サイトウヌカグモ 貝發 4F1M
Diplocephaloides saganus (Bösenberg & Strand 1906) ハラジロムナキグモ 貝發 2F, 熊田 6F, 萩野 4F
Erigone prominens Bösenberg & Strand 1906 ノコギリヒザグモ 熊田 2F
Hylyphantes graminicola (Sundevall 1830) クロナンキングモ 貝發 2F2M, 加藤 2F1M, 加村 2F, 熊田 11F2M
Ketambea nigripectoris (Oi 1960) ムネグロサラグモ 加藤 1M, 加村 3F1M, 塩崎 4F
Neriere longipedella (Bösenberg & Strand 1906) アシナガサラグモ 萩野 3F1m2y
Neriere oidedicata van Helsdingen 1969 ヘリジロサラグモ 加村 1F
Turinyphia yunohamensis (Bösenberg & Strand 1906) ユノハマサラグモ 貝發 1F, 加藤 2F, 加村 2F, 熊田 2F, 塩崎 2F
Weintrauboa contortipes (Karsch 1881) アシヨレグモ 塩崎 1F
- Oecobiidae チリグモ科**
- Uroctea compactilis* L. Koch 1878 ヒラタグモ 加藤 1f, 熊田 1f
- Uloboridae ウズグモ科**
- Miagrammopes orientalis* Bösenberg & Strand 1906 マネキグモ 貝發 1F, 熊田 3F1M,

塩崎 1F

Octonoba sybotides (Bösenberg & Strand 1906) カタハリウズグモ 加藤 1F, 塩崎 1F, 萩野 1F1M

Titanoecidae ヤマトガケジグモ科

Nurscia albofasciata (Strand 1907) ヤマトガケジグモ 加藤 1M, 熊田 1M

Agelenidae タナグモ科

Agelena silvatica Oliger 1983 クサグモ 加藤 1f, 熊田 1f, 萩野 3F

Allagelena opulenta (L. Koch 1878) コクサグモ 貝發 2f19y, 加藤 3y, 熊田 16y, 萩野 10y

Hahniidae ハタケグモ科

Hahnica corticicola Bösenberg & Strand 1906 ハタケグモ 熊田 1F

Dictynidae ハグモ科

Dictyna foliicola Bösenberg & Strand 1906 ヒナハグモ 貝發 3F, 加藤 3F4M1f, 加村 1F1M, 熊田 7F

Lathys annulata Bösenberg & Strand 1906 カレハグモ 熊田 1F

Desidae ウシオグモ科

Badumna insignis (L. Koch 1872) クロガケジグモ 熊田 1f

Ctenidae シボグモ科

Anahita fauna Karsch 1879 シボグモ 貝發 1y, 加藤 1f2y, 萩野 1m2y

Oxyopidae ササグモ科

Oxyopes sertatus L. Koch 1878 ササグモ 貝發 2F, 加藤 2f, 加村 1m, 熊田 3F2f3M2m, 萩野 2F2m

Pisauridae キシダグモ科

Dolomedes raptor Bösenberg & Strand 1906 アオグロハシリグモ 熊田 1y

Dolomedes sulfureus L. Koch 1878 イオウイロハシリグモ 貝發 1fly, 熊田 1y

Pisaura lama Bösenberg & Strand 1906 アズマキシダグモ 加藤 1F

Lycosidae コモリグモ科

Arctosa fujiii Tanaka 1985 フジイコモリグモ 萩野 1F

Pardosa agraria Tanaka 1985 イナダハリゲコモリグモ 加藤 1F4M3f, 熊田 1F, 萩野 14F3M

Pardosa astrigera L. Koch 1878 ウズキコモリグモ 熊田 1F1M, 塩崎 1F, 萩野 1F

Pardosa laura Karsch 1879 ハリゲコモリグモ 加村 5M, 熊田 2M

Piratula clercki (Bösenberg & Strand 1906) クラークコモリグモ 加藤 1F, 熊田 1F, 塩崎 3M

Piratula piratoides (Bösenberg & Strand 1906) イモコモリグモ 加村 2F

Piratula procurva (Bösenberg & Strand 1906) チビコモリグモ 貝發 1M2y, 加村 1M, 萩野 6F6M

Piratula yaginumai (Tanaka 1974) ナミコモリグモ 加村 1F

Thomisidae カニグモ科

Diaea subdola O. P.-Cambridge 1885 コハナグモ 貝發 1F2M4y, 加藤 1F1M1f2y, 加村 1F1M, 熊田 5f7M1m, 萩野 3M1y

Ebrechtella tricuspидata (Fabricius 1775) ハナグモ 加村 1F, 熊田 1F

Lysiteles coronatus (Grube 1861) アマギエビスグモ 熊田 1F1M

Oxytate striatipes L. Koch 1878 ワカバグモ 貝發 1F, 熊田 1F, 萩野 1F

Ozyptila matsumotoi Ono 1988 マツモトオチバカニグモ 貝發 1F

Thomisus labefactus Karsch 1881 アズチグモ 貝發 1y, 加村 2y, 熊田 1f, 萩野 1y

Tmarus piger (Walckenaer 1802) トラフカニグモ 加村 1F

Xysticus croceus Fox 1937 ヤミイロカニグモ 貝發 5F, 加藤 2F1M, 加村 1M, 熊田 8F

Xysticus transversomaculatus Bösenberg & Strand 1906 ヨコフカニグモ 加村 1M

Clubionidae フクログモ科

Bucliona jucunda (Karsch 1879) ヤハズフクログモ 貝發 2y, 加藤 2F1f

Clubiona deletrix O. P.-Cambridge 1885 マダラフクログモ 加藤 1f1m1y

Clubiona inaensis Hayashi 1989 イナフクログモ 貝發 1F, 加藤 2M

Clubiona yaginumai Hayashi 1989 ヤギヌマフクログモ 貝發 1F, 加藤 1M, 熊田 3F1M2f

Trachelidae ネコグモ科

Orthobula crucifera Bösenberg & Strand 1906 オトヒメグモ 萩野 2F1M

Trachelas japonicus Bösenberg & Strand 1906 ネコグモ 熊田 1F, 萩野 4F

Phrurolithidae ウラシマグモ科

Corealithus coreanus (Paik 1991) キレオビウラシマグモ 加村 2F

Pennalithus pennatus (Yaginuma 1967) ヤバネウラシマグモ 加村 1m, 萩野 1m

Gnaphosidae ワシグモ科

Drassyllus sanmenensis Platnick & Song 1986 エビチャヨリメケムリグモ 加村 1F1M

Odontodrassus hondoensis (S. Saito 1939) ヤマトフトバワシグモ 加村 1F

Sernokorba pallidipatellis (Bösenberg & Strand 1906) マエトビケムリグモ 加村 1M

Miturgidae ツチフクログモ科

Prochora praticola (Bösenberg & Strand 1906) イタチグモ 萩野 1F

Philodromidae エビグモ科

Philodromus emarginatus (Schrank 1803) キエビグモ 加藤 1f

Philodromus spinatarsis Simon 1895 キハダエビグモ 貝發 1M

Philodromus subaureolus Bösenberg & Strand 1906 アサヒエビグモ 貝發 2F1f2M4y, 加藤 1F1M1f, 加村 2M, 熊田 7f5m, 萩野 1F3y

Thanatus miniaceus Simon 1880 ヤドカリグモ 加藤 1M, 熊田 1M

Tibellus japonicus Efimik 1999 シャコグモ 貝發 1F1m, 熊田 1F1f1m

Salticidae ハエトリグモ科

- Attulus penicillatus* (Simon 1875) シラホシコゲチャハエトリ 加藤 1F1M
Bristowia heterospinosa Reimoser 1934 マツモトハエトリ 加藤 1F, 萩野 2M2y
Carrhotus xanthogramma (Latreille 1819) ネコハエトリ 貝發 1F, 加藤 1F, 萩野 1F
Evarcha albaria (L. Koch 1878) マミジロハエトリ 加藤 2M, 加村 2F, 熊田 2F2M, 萩野 1F1M3y
Evarcha fasciata Seo 1992 マミクロハエトリ 加藤 2F2M, 熊田 4F1f, 萩野 1M
Harmochirus insulanus (Kishida 1914) ウデブトハエトリ 加村 1y
Laufeia aenea Simon 1889 エキスハエトリ 加藤 1F, 加村 1F
Marpissa pulla (Karsch 1879) ヨダンハエトリ 萩野 1F3M
Mendoza canestrinii (Ninni 1868) オスクロハエトリ 加村 2M, 熊田 1f
Mendoza elongata (Karsch 1879) ヤハズハエトリ 加藤 2F1M, 加村 1F
Myrmarachne elongata Szombathy 1915 ヤガタアリグモ 萩野 1f
Myrmarachne inermichelis Bösenberg & Strand 1906 ヤサアリグモ 貝發 1F, 熊田 2f1M, 萩野 1F1M
Myrmarachne japonica (Karsch 1879) アリグモ 加藤 1M1f, 熊田 1f
Myrmarachne kuwagata Yaginuma 1967 クワガタアリグモ 加藤 1M
Orienticius vulpes (Grube 1861) イナズマハエトリ 熊田 1f
Pancorius crassipes (Karsch 1881) アシブトハエトリ 加村 1y
Phintella linea (Karsch 1879) メガネアサヒハエトリ 加藤 1F
Phintelloides versicolor (C. L. Koch 1846) メスジロハエトリ 熊田 1f
Plexippoides doenitzi (Karsch 1879) デーニッツハエトリ 貝發 1y, 熊田 2M, 萩野 2y
Plexippus paykulli (Audouin 1826) チャスジハエトリ 熊田 1f
Plexippus setipes Karsch 1879 ミスジハエトリ 塩崎 1m1y
Rhene albigera (C.L.Koch 1848) ヒメカラスハエトリ 貝發 2y, 加藤 2F, 熊田 1f1m
Sibianor pullus (Bösenberg & Strand 1906) キレワハエトリ 萩野 2M
Siler cupreus Simon 1889 アオオビハエトリ 加藤 2F2M, 加村 1F, 熊田 1F1M, 塩崎 2F, 萩野 4M2f1m
Yaginumanis sexdentatus (Yaginuma 1967) ムツバハエトリ 加村 1m, 熊田 1F, 萩野 1M

関西クモ研究会 2024 年度 採集会の記録 京都市山科区 (JR 山科駅～毘沙門堂)

実施日：2024 年 10 月 20 日

場所：京都市山科区 (JR 山科駅からその北部の毘沙門堂まで)

参加者：安達郁子，荒川真，飯森槻丞，飯森耕介，飯森央子，加村隆英，川合あき，清水裕行，中内恵理子，原口岳，榊元智子，松下詠太郎，村上協三，安原啓太，安原智樹，安原真里，吉田徹也。(敬称略)



図 1. 採集会の参加者.

この採集会で確認されたクモは下記のとおりである。標本に基づく同定結果にはアスタリスク (*) を付し，採集会当日の現地における参加者からの報告による記録は (r) で示した。

なお，この採集会の実施に先立ち，2024 年 6 月 8 日に，川合あきさん，柳川莉子さん及び加村隆英の 3 名で現地の下見を行った。その時に採集された標本の同定結果も併せて示す。各データに (6 月) あるいは (10 月) を付して，下見時のデータが区別できるようにした。

標本の同定は主に加村隆英が行った。一部の種の同定については，谷川明男さん，榊元敏也さんにご教示いただいた。厚くお礼申し上げます。

科の配列は谷川 (2025) に従った。

トタテグモ科

Latouchia typica (Kishida 1913) キシノウエトタテグモ 幼体(r) (10月)

ユウレイグモ科

Pholcus crypticolens Bösenberg & Strand 1906 ユウレイグモ (r) (10月)

Spermophora senoculata (Dugès 1836) シモングモ ♀* (6月)

ヒメグモ科

Argyrodes bonadea (Karsch 1881) シロカネイソウロウグモ ♀*, ♂* (10月)

Argyrodes kumadai Chida & Tanikawa 1999 チリイソウロウグモ 幼体(r), 卵囊(r) (10月)

Chrysso foliata (L.Koch 1878) ホシミドリヒメグモ (r) (10月)

Dipoena punctisparsa Yaginuma 1967 シモフリミジングモ ♀* (6月); (r) (10月)

Episinus nubilus Yaginuma 1960 ムラクモヒシガタグモ ♀* (6月); (r) (10月)

Neospintharus fur (Bösenberg & Strand 1906) フタオイソウロウグモ ♀* (10月) (図 2A)

Nihonhimea japonica (Bösenberg & Strand 1906) ニホンヒメグモ ♀(r) (10月)

Parasteatoda culicivora (Bösenberg & Strand 1906) カグヤヒメグモ ♂* (6月); ♀* (10月)

Phycosoma mustelinum (Simon 1889) カニミジングモ ♂幼体* (10月)

Platnickina maculata (Yoshida 2001) ミナミホシヒメグモ ♀* (10月) (図 2B)

ヨリメグモ科

Comaroma maculosa Oi 1960 ヨロイヒメグモ ♂* (10月)

コガネグモ科

Acusilas coccineus Simon 1895 ハツリグモ ♂* (6月); ♂幼体* (10月)

Argiope aetheroides Yin, Wang, Zhang, Peng & Chen 1989 ムシバミコガネグモ ♂* (10月)

Argiope minuta Karsch 1879 コガタコガネグモ ♀* (10月)

Cyclosa argenteoalba Bösenberg & Strand 1906 ギンメッキゴミグモ ♀* (10月)

Cyclosa atrata Bösenberg & Strand 1906 カラスゴミグモ ♀* (10月)

Cyclosa octotuberculata Karsch 1879 ゴミグモ ♀幼体* (10月)

Cyclosa omonaga Tanikawa 1992 シマゴミグモ ♀* (6月); ♀* (10月)

Cyclosa vallata Keyserling 1886 マルゴミグモ ♀* (6月)

Gasteracantha kuhli C. L. Koch 1837 トゲグモ? 幼体* (10月) (図 2C)

Trichonephila clavata (L. Koch 1878) ジョロウグモ ♀(r), ♂(r) (10月)

Yaginumia sia (Strand 1906) ズグロオニグモ 幼体* (6月); ♀*, ♂*, 幼体(r) (10月)

センショウグモ科

Ero japonica Bösenberg & Strand 1906 センショウグモ (r) (10月)

アシナガグモ科

Pachygnatha tenera Karsch 1879 ヒメアシナガグモ ♀* (10月) (図 2D)

Tetragnatha praedonia L. Koch 1878 アシナガグモ ♀*, ♂* (6月); ♂* (10月)

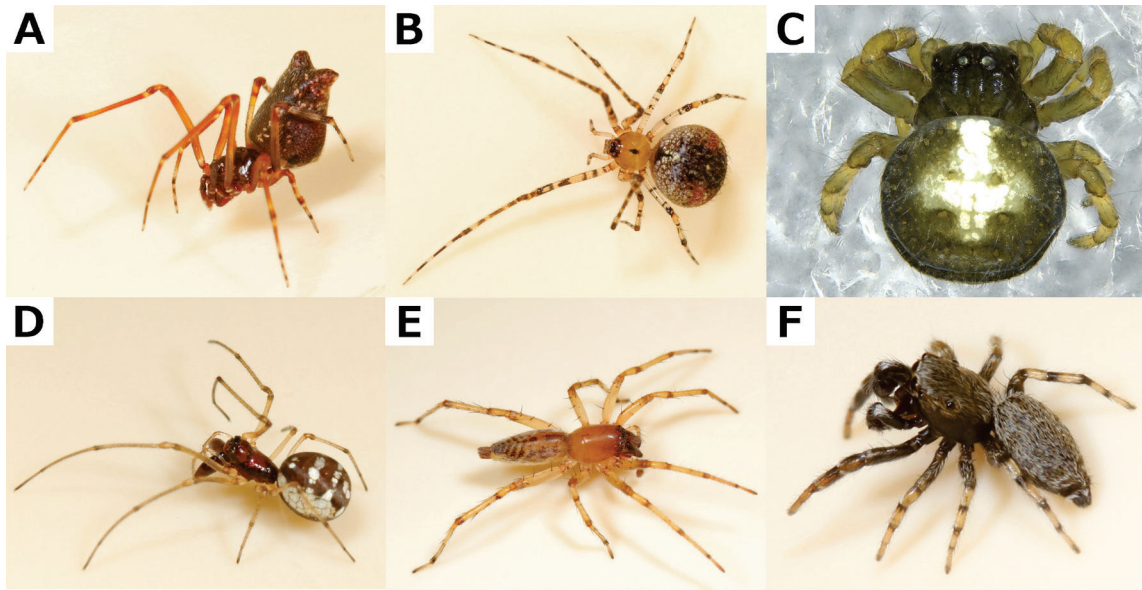


図 2. 京都市山科区で採集されたクモ類. A, フタオイソウロウグモ♀; B, ミナミホシヒメグモ♀; C, トゲグモとおぼしき幼体 (体長 1.2 mm); D, ヒメアシナガグモ♀; E, マダラフクログモ♂; F, トサハエトリ♂. (A-E, 10月20日採集; F, 6月8日採集.)

Tetragnatha squamata Karsch 1879 ウロコアシナガグモ? ♀*(10月)

サラグモ科

Diplocephaloides saganus (Bösenberg & Strand 1906) ハラジロムナキグモ (r) (10月)

Hylyphantes graminicola (Sundevall 1830) クロナンキングモ ♀*(6月)

Ketambea nigripectoris (Oi 1960) ムネグロサラグモ ♀*(10月)

Neriere longipedella (Bösenberg & Strand 1906) アシナガサラグモ ♀*(10月)

Parhypomma naraense (Oi 1960) ナラヌカグモ ♀*(6月)

Syedra oii H. Saito 1983 オオイオリヒメサラグモ ♀*(6月); ♀*, ♂幼体*(10月)

Weintrauboa contortipes (Karsch 1881) アシヨレグモ ♀幼体*(10月)

チリグモ科

Oecobius navus Blackwall 1859 チリグモ (r) (10月)

Uroctea compactilis L. Koch 1878 ヒラタグモ (r) (10月)

タナグモ科

Allagelena opulenta (L. Koch 1878) コクサグモ ♂*(10月)

ハグモ科

Dictyna felis Bösenberg & Strand 1906 ネコハグモ ♀*, ♂*(10月)

ウシオグモ科

Badumna insignis (L.Koch 1872) クロガケジグモ ♀*(10月)

ササグモ科

Oxyopes sertatus L. Koch 1878 ササグモ (r) (10月)

コモリグモ科

Lycosa coelestis L. Koch 1878 ハラクロコモリグモ (r) (10月)

カニグモ科

Bassaniana decorata (Karsch 1879) キハダカニグモ ♀* (6月); ♂幼体* (10月)

Ebrechtella tricuspidata (Fabricius 1775) ハナグモ (r) (10月)

Oxytate striatipes L. Koch 1878 ワカバグモ (r) (10月)

Xysticus croceus Fox 1937 ヤミイロカニグモ ♂* (6月)

フクログモ科

Clubiona deletrix O. P.-Cambridge 1885 マダラフクログモ ♂* (10月) (図 2E)

ネコグモ科

Orthobula crucifera Bösenberg & Strand 1906 オトヒメグモ ♂* (10月)

ウラシマグモ科

Coreolithus coreanus (Paik 1991) キレオビウラシマグモ (r) (10月)

Otacilia komurai (Yaginuma 1952) コムラウラシマグモ (r) (10月)

Pennalithus pennatus (Yaginuma 1967) ヤバネウラシマグモ ♂幼体* (6月)

ワシグモ科

Sanitubius anatolicus (Kamura 1989) ナミトンビグモ ♀* (6月)

アワセグモ科

Selenops bursarius Karsch 1879 アワセグモ (r) (10月)

ツチフクログモ科

Prochora praticola (Bösenberg & Strand 1906) イタチグモ ♂幼体* (6月); ♀* (10月)

エビグモ科

Philodromus subaureolus Bösenberg & Strand 1906 アサヒエビグモ (r) (10月)

ハエトリグモ科

Bristowia heterospinosa Reimoser 1934 マツモトハエトリ (r) (10月)

Menemerus brachygnathus (Thorell 1877) シラヒゲハエトリ ♀幼体* (6月)

Myrmarachne elongata Szombathy 1915 ヤガタアリグモ ♂* (6月); ♂(r) (10月)

Myrmarachne inermichelis Bösenberg & Strand 1906 ヤサアリグモ ♀* (6月); ♀*, ♂
亜成体* (10月)

Myrmarachne japonica (Karsch 1879) アリグモ ♀* (6月)

Orienticius vulpes (Grube 1861) イナズマハエトリ ♂* (6月); ♂幼体* (10月)

Pancorius crassipes (Karsch 1881) アシブトハエトリ ♂幼体* (6月); 幼体* (10月)

Phintelloides versicolor (C. L. Koch 1846) メスジロハエトリ (r) (10月)

Plexippoides doenitzi (Karsch 1879) デーニッツハエトリ (r) (10月)

Sibianor pullus (Bösenberg & Strand 1906) キレワハエトリ ♂* (6月)

Siler cupreus Simon 1889 アオオビハエトリ (r) (10月)

Tasa koreana (Wesołowska 1981) トサハエトリ ♂* (6月) (図 2F)

京都府新記録種

上記のうち、ミナミホシヒメグモ、マダラフクログモ、トサハエトリの3種は、新海ら（2024）のデータによると京都府では未記録であった。

文献

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2024. CD 日本のクモ ver.2024. 自費刊行.

谷川明男 2025. 日本産クモ類目録 ver. 2025 R1. <https://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>

(文責：加村隆英)

関西クモ研究会 2024 年度例会の記録

2025 年 2 月 2 日（日）に大阪市立自然史博物館で 2024 年度の例会が開催された。通常の会場における実施に加えて、オンライン（zoom を使用）による参加も併用された。

出席者

安達利道，荒川真，飯森槻丞，飯森央子，伊藤博，井原庸，川合あき，加村隆英，佐々木善英，新海明，関根幹夫，谷川明男，垂水有三，中内恵理子，原口岳，本庄四郎，松下詠太郎，松下紫，松田和美，松本吏樹郎，村上協三，柳川莉子，吉田真。
オンライン参加：大関佑弥，岡田純二，長崎緑子，中村香代子，梶元智子，吉田徹也。

出席者全員が自己紹介及び近況報告を行ったうえで，講演発表に移った。

講演

1. 松本吏樹郎：雄クモへの便乗は失敗なのか？ カマキリモドキ幼虫の寄生戦略
2. 新海明：イソウロウグモ類の風変わりでない採餌行動
3. 関根幹夫：和歌山県海南市孟子不動谷におけるコガネグモの分布と生息状況
4. 谷川明男：日本産ジグモ属の分類学的研究
5. 本庄四郎：兵庫県のキノボリキヌキリグモについて
6. 井原庸：関西のナミハグモ
7. 飯森槻丞・村上協三：コタナグモ近似 2 種について
8. 加村隆英：ハエミノチャクロワシグモとその近縁種

総会

[報告事項]

会員数：現在の会員は 88 名。

会員名簿の作成と管理方法：会員名簿は役員のみが閲覧できるパスワード付きのクラウドに保持している。

今年度以降の"入会年度"に関する方針：例会の案内はがきを発送（概ね例会開催日より 1~2 ヶ月以前）した後に入会する場合は，次年度からの入会として，その年度末の会誌を入手希望の場合はバックナンバー購入に準じた扱いとする。

会費納付状況：2022 年度以前の会費を未納の会員が 11 名残っている。対応については今後検討する。2023~2025 年度の会費についても，できるだけ年度内の支払いをお願いしたい。

会計報告：2023 年度の支出には，ゆうちょダイレクト用のトークンの購入費が含まれている。郵便料金や zoom 契約金額の増加に伴って，今後の会計状況の動向には注

意する必要がある。

郵便局に提出する役員名簿の件：郵便振替口座開設のために、郵便局に本会の役員名簿を提出している。郵便局が本会の代表者と見なしている会計幹事が交代した場合は、新たに役員名簿を提出する必要がある。

くものいとの編集：第 58 号を現在編集中。3 月に発行の予定。この号の原稿締め切りは 2 月 23 日とする。

[審議事項]

次期役員

2025・2026 年度役員候補について、事前に役員間で検討した人選を提示して以下のとおり承認された。会長：加村隆英，庶務幹事：原口岳，会計幹事：荒川真，編集委員：加村隆英，顧問：吉田真・西川喜朗。

会計監査は未定のため、引き続き検討する。

2025 年度採集会・例会の予定

採集会については、事前に役員間で検討した計画を提示して以下のとおり承認された。場所：山門水源の森（滋賀県長浜市）。実施日：2025 年 5 月 25 日（日）、2025 年 10 月 5 日（日）。公共交通機関のみによる移動が難しいため、参加する会員の運転する自動車への相乗り等の協力をお願いしたい。

例会の日程については、大阪市立自然史博物館の年間予定を見たうえで検討する。

→ 仮日程を 2025 年 11 月 16 日（日）として大阪自然史博物館集会室を予約。

その他

伊藤博氏から以下の提案があり、了承された。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」でクモの写真をあしらったクリアファイルを作製し、滋賀県立琵琶湖博物館で販売する計画がある。種名を伴ったクモの写真を使うため、関西クモ研究会会員の確認を得たうえで、「関西クモ研究会監修」と記したい。役員内で回覧し、挙がった意見を会長が取りまとめ、伊藤氏に返答。

関西クモ研究会 2023 年度会計報告

	(円)
収入：	
2022 年度からの繰越金	746,060
2023 年度分会費 前受分繰入	43,000
2023 年度分会費 年度内入金分	20,000
過年度分会費 2023 年度内入金分	12,000
くものいとバックナンバー販売時入金分	1,015

合計	822,075
-----------	----------------

支出：	
前会費振込口座の入出金照会手数料	1,100
会費振込口座の変更に伴う残高送金手数料	800
新会費振込口座のゆうちょダイレクト用トークン	825
くものいと No. 57 印刷費	48,286
くものいと No. 57 発送用封筒	1,443
くものいと No. 57 発送用宛名ラベル	1,518
くものいと No. 57 郵送料	15,120
くものいとバックナンバー郵送料	395
採集会・例会等案内ハガキ郵送料	16,002
例会用 ZOOM ライセンス契約 (2021, 2022, 2023 年度分計)	6,738
領収証 複写式 40 組綴り	110
2024 年度への繰越	729,738

合計	822,075
-----------	----------------

会費前受状況

2023 年度末における会費前受分の合計は、62,000 円である。内訳は以下のとおり：
2024 年度分 35,000 円、2025 年度分 14,000 円、2026 年度分 5,000 円、2027 年度分
4,000 円、2028 年度分 2,000 円、2029 年度分 2,000 円。

上記のとおり、報告します。

会計幹事 荒川 真

2023 年度会計監査報告

関西クモ研究会 2023 年度会計について、各種関係書類に基づき監査を行った結果、適正に処理されていることを確認しました。

2024 年 10 月 16 日 会計監査 榎元智子

第 59 号原稿募集

原稿受付締め切りは、**2025 年 12 月 31 日**です。

原稿は編集委員の加村隆英まで、電子メールでお送りください。

kamura@haruka.otemon.ac.jp

電子メールの「件名」には、必ず「くものいと原稿」と記してください。

他のメールに紛れてしまうことを防ぐために、よろしくお願ひします。

原稿作成上の注意

原稿はワードで作成してください。

細かい書式は編集委員が整えますので、原稿においては適当でかまいません。

図（写真を含む）や表は、ワードの原稿に貼り付けて、およそのレイアウトを指示してください。ただし、編集の都合で、指示どおりにはならないこともありますので、ご了承ください。

レイアウトに特に指示のない場合は、図表を別のファイルとして提出していただいてもかまいません。

表は、エクセルで作成し、ワードの原稿に貼り付けた場合も、当該のエクセルのファイルを別に提出してください。

図をワードの原稿に貼り付けた場合は、特殊な場合を除き、別ファイルとして提出する必要はありません（別ファイルが必要な場合は、原稿受領後に連絡します）。

関西クモ研究会 会費納入のお願い

本会の年会費は年額 1,000 円です。
前納を原則としていますので、よろしくお願ひします。

郵便振替口座 口座記号・番号 00990-6-240315
加入者名 関西クモ研究会

他金融機関からの振込用口座番号

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0240315

会費納入に関するお問い合わせは、会計幹事の荒川までお願いいたします。

会計幹事：荒川 真 E-mail: arkw0arachnids@gmail.com

関西クモ研究会

2023-2024 年度

会 長 加村隆英 E-mail: kamura@haruka.otemon.ac.jp

庶務幹事 原口 岳 E-mail: h1r1g3ch2@gmail.com

会計幹事 荒川 真

編集委員 加村隆英・原口 岳

会計監査 榊元智子

顧 問 西川喜朗・吉田 真

ウェブサイト http://kansaikumo.sakura.ne.jp/kansaikumo/index_kansaikumo.html

くものいと 第58号
2025年3月28日発行
関西クモ研究会

印刷 株式会社オーエム